

ぼっけ
北方遊水池の会

資料総覧 2007

PART 4-2
大柏川調節池整備検討会
2003（平成15）年度 報告書(2/2)
(2003（平成16年）年6月)

2007(平成19)年3月

北方遊水池の会

4. その他の活動内容 4-1 会報

北方遊水池友の会 会報

<役員会便り>

北方遊水池友の会 役員会開催

開催日時 2003年5月28日(水) 19:00～21:00 場所 八幡分庁舎2階会議室

内容

- 1 当会のアドバイザーを昨年どおり市川学園 石井信様さん(*), 千葉県中央博物館 中村さん、 東京家政学院大学 望月さんにお願いすることとし、先方のご了解を得問い合わせる。
- 2 千葉県中央博物館 中村さんによる意見交換についての意見と北方遊水池の会からの質問をする機会をつくる。その後、7月6日(日)の全体会に参加されることとなつた。

3 会報発行

2003年度以降、検討内容が多岐に渡り分科会の検討内容に深く関連することが予想され、全体会の情報交換では遅れが生じるおそれがある。これを避けるために、各分科会が開かれる時点では選出、発行作業をしていただく。

4 次回全体会<7月6日(日)>の内容

- ・千葉県中央博物館 中村さんとの意見交換 ・3分科会活動報告、連絡
・分科会の打ち合わせ

* 当腰懇親会の初回計画時よりご尽力され、当会のアドバイザーをお願いしておりました市川学園 石井信様さんが去る6月7日ご逝去されました。ご冥福をお祈り致しました。

<運営検討分科会便り>

皆さんは「運営」と書いて何を思い浮かべますか？

英語でマネージメントと置き換えるても今一つつかみ所がないですね。私達の検討範囲は大変広いのですが、要は「人と金の動きを作り出す、円滑に動かす」という事です。具体的な中身は、運営の方法や組織、維持作業、企画、利用者規定などです。いずれもしっかりと決めておかなければなりません。

は生きられないようになくてはならない重要なものです。

今年度初めての地自会を5月24日に開きました。「運営の基本は何か、運営で何が大切か」をテーマに意見交換(ブレーンストーミング)を行いました。自然環境の保全と利用の両立、市民と行政の役割を自覚した協働、地域本来の自然の復元と共に、善意の利用者の自己責任、多くの市民が参加する開かれた運営、子どもの観点の重視、ゴミ対策と防犯の重要性、市の予算化と財源の問題、行政上の位置づけや他の事例など研究の必要性など、さまざまな意見が出されました。今回は検討・協議をせずにまず互いに意見を出すという事で終わりましたが、次から「運営に関する基本計画」を具体化する検討に入る予定です。

次回の運営検討分科会は次の通りです。

日時：6月22日(日) 午後1時30分～4時

場所：東部公民館 第2研修室

内容 報告書2ページの「運営の基本となる考え方」を運営方法、運営組織、維持作業、企画、利用者規定の項目毎に検討・協議します。各自、それら項目毎に基本となる考え方の要素をつくり、持ち寄ってください。他分科会の方々の飛び入り参加を歓迎します。盛ってご参加ください。

第1号

発行日 平成15年6月20日(金)
発行元 北方遊水池友の会 会報担当

<施設検討分科会便り>

○これまでの検討経過

北部広場の基本計画については、平成15年3月22日(土)第5回会合と平成15年5月17日(土)第6回会合の2回で各自のイメージ案を発表し、それをふまえて全体的な方向性を検討した。
北部広場の基本計画の次回検討は6月28日の会合とし、いよいよ具体的検討に入る予定。
又、池全体の樹林作り、草作りの計画方針と外周堤防の基本計画については、6月7日(土)第7回会合で検討した。分科会案の公表は7月6日(日)第2回全体会での中村アドバイザーの意見を待つて行う予定。

○今後の日程

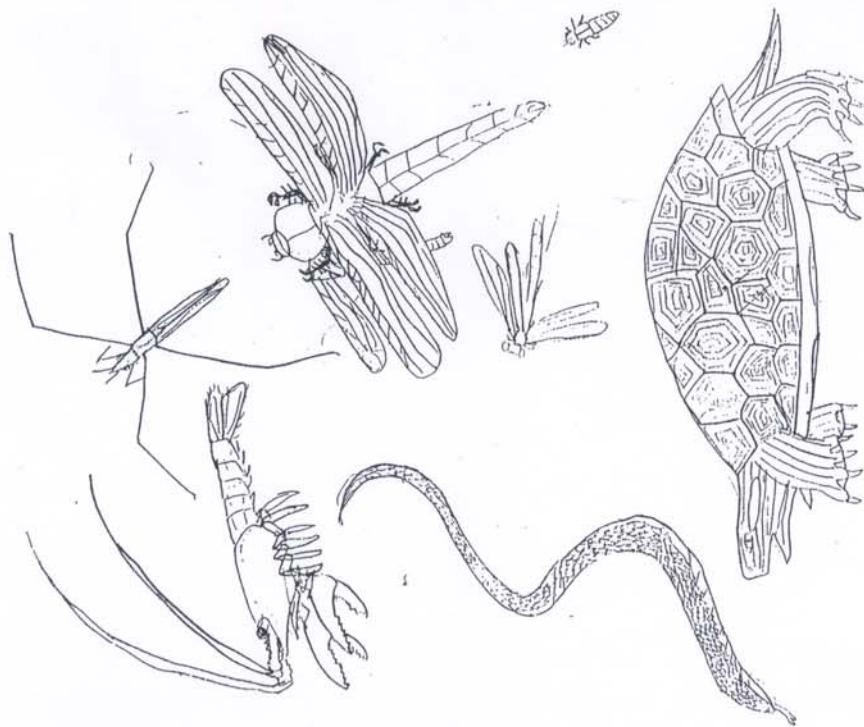
・平成15年6月28日(土) 1:30pm～5:00pm 東部公民館にて第8回会合予定
　　テーマ：①北部広場の基本計画(案)の検討(その1)
　　②外周堤防の基本計画(案)の検討(その2)
　　③ビジターセンター、作業小屋等の計画内容提起
・第8回会合を平成15年7月中旬以降開催することで調整中。
　　テーマ：①北部広場の基本計画(案)の検討(その2)
　　②外周堤防の基本計画(案)の検討(その3)まとめ
　　③ビジターセンター、作業小屋等の各施設の検討(その1)

<啓発検討分科会便り>

・植生調査始まる

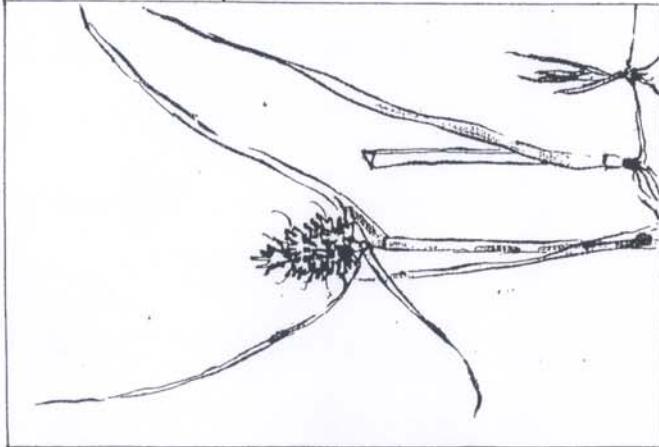
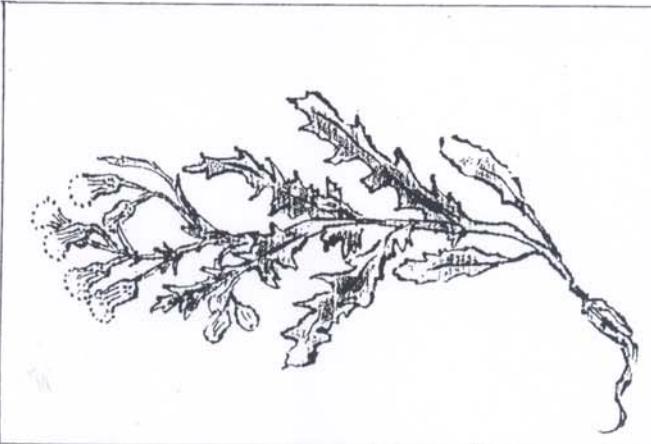
* 5月10日(土) 16:00～ 植生調査場所決定
全体会終了後、市担当の岡崎さんと管分区会メンバーハーは、調節池に移動。
岡崎さんに教えていただいた植生調査場所の選び方を参考に、地形・地質等から
検討し、植生調査場所として4箇所(地図参照別紙)を決め、観察の為の枠を立てた。
* 5月11日(日) 13:30～ 第1回植生調査実施
参加者 啓発メンバー9人、他分科会メンバー2人、市担当の岡崎さん(計12人)。
岡崎さんに植生調査の行い方の説明を受け、1から4の調査ポイントで調査を実施。
名前の判らない植物は、新聞紙に挿し標本とし、後日調べる為に持ちかえった。
* 6月1日(日) 13:30～ 第2回植生調査実施
参加者 啓発メンバー5人、他分科会メンバー2人、市担当の岡崎さん(計10人)。木村さんから調査ポイント毎に、植生の詳しい説明をし
ていただきたい。当日午前中まで雨天であったため、池がかなり増水しており、阿蘭所
が堤が決壊していました。前回調査で発見した「こちどり」の卵はもうなくなっていた。
・今後の活動予定
* 7月6日(日) 全体会終了後、分科会及び植生調査を実施予定。

らくがき

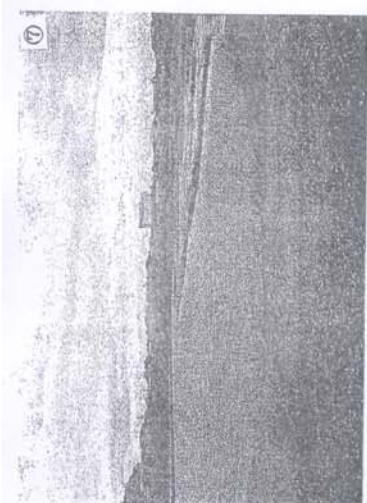
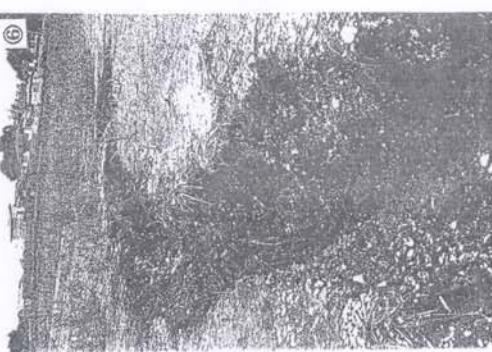
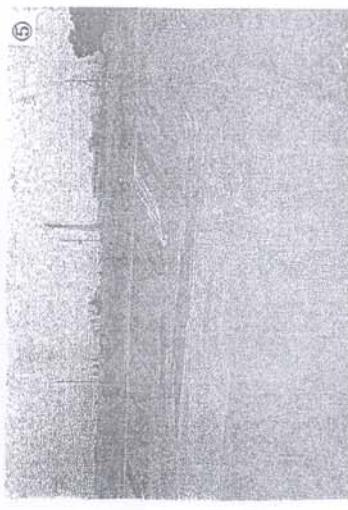
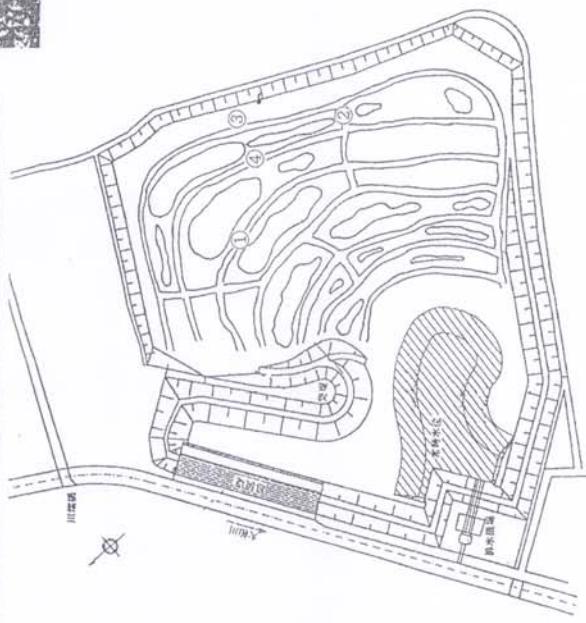
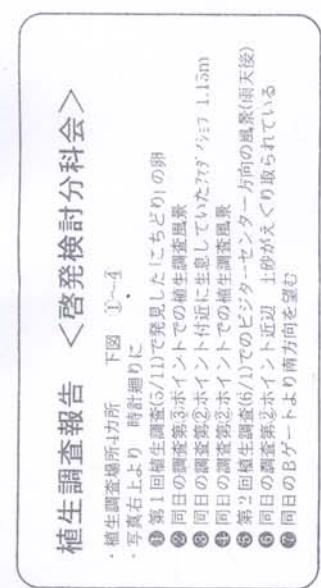
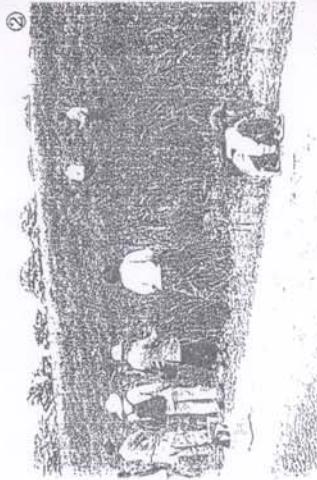


今までの植生調査で見つけた生き物
(啓発メンバー 山下龍一 小さのスケッチ)

「野に咲く花」
幼いころまきごとで迷んだ花なのに
野の花とは可憐な名前ですね。
6月1日北方灘水池にて (黒)



「津柳」
葉の葉脈は葉の部分が三角形である
と先生に伺いました。從つて津も
三方向から出る。一概に津草とは
言えなくなりました。

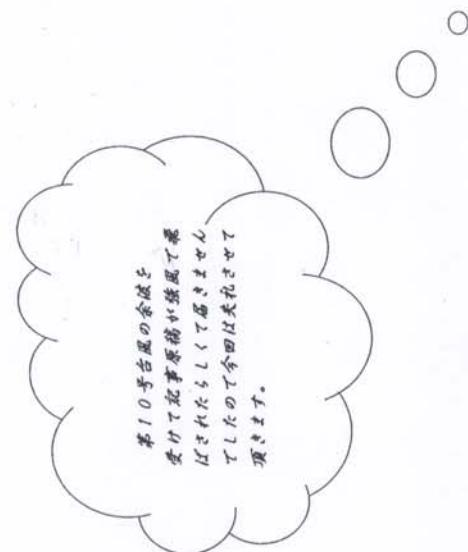


北方遼水池の会・会報

第2号

発行日 平成15年8月12日(火)
発行元 北方遼水池の会 会報担当

<役員会便り>



<施設検討分科会便り>

○これまでの検討結果
平成15年6月28日(土)に第8回会合、7月12日(土)に第9回会合ならびに7月26日(土)に第10回会合を実施し、第2回全体会での中村先生のアドバイスも盛り込み、構造基本計画、外周堤防基本計画ならびに北部広場基本計画を概ねとりまとめ、8月30日(土)の第3回全体会への分科会案として提出するはこびとなりました。

ビジャーセンター・作業小屋の基本方針については、第9回、第10回の会合でフリートーナーング(第9回は運営検討分科会との合同会合)を行ないました。今後のメインテーマとして検討を重ねていく予定です。

○今後の日程

・平成15年8月16日(土) 1:30pm~5:00pm 東部公民館にて第11回会合予定
テーマ：①種類基本計画、外周堤防基本計画ならびに北部広場基本計画の各案の第3回全体会へ
向けての点検

②ビジャーセンター・作業小屋の基本方針の検討 (その3)

・第12回会合を平成15年9月中旬で開催予定で調整中
テーマ：①種類基本計画、外周堤防基本計画ならびに北部広場基本計画の各案の第3回全体会等
からの意見を受けての調整検討
②ビジャーセンター・作業小屋の基本方針の検討 (その4)

<運営検討分科会便り>

第2回全体会以後、運営検討分科会は7月12日と8月5日に「運営に関する基本計画案」の作成を進めており、9月27日の全体会に提案の予定です。「他の施設や地域ではどうなっているの?」視察して見聞をひろめたい」という事で、次の通り検察会を開きます。

・日時 8月17日(日) 12時30分から17時頃。(小雨決行)

・観察場所：行徳島駅保護区、行徳野鳥観察舎。

・内容：定例の保護区内観察会に参加し、湿地の維持管理の実際を見学します。また、NPO法人「行地野鳥観察会友の会」と市川市のそれぞれ担当者から、その運営について親察会内で説明を受けます。

・集合 12時30分 市役所前駐車場 (市川20人乗りマイクロバスに乗車)。

・解散 17時 市役所前駐車場。

・持ち物 長靴(なればぬれても良い運動靴)、帽子、飲み物、あわび双眼鏡など観察用具、虫ささげなどを気にする方は長袖・長ズボン。

*この検察会に他分科会からの傍聴参加を歓迎します。参加を希望される方は、8月16日(土)正午までに岩田までお申し込みください。バスの乗車料は申込み先着順で20人ですので、お早めに。なお、自分の車で直接行く場合は、前述の事前申し込みをして(参加人数の確認が必要なため)、行徳野鳥観察会へ13時10分前に来てください。申込先の岩田の連絡先は、次の通りです。
e-mail : g_qj60801@biglobe.ne.jp (注: qは「オバQ」のq)
FAX/電話: 04-7-475-0575

*なお、第2回検察会は9月中旬に横浜の鶴見川多目的遊水池を予定しています。

<啓発分科会便り>

・植生調査報告

7月6日(日) 全体会終了後、第3回植生調査実施。

参加者 啓発メンバー7名、他分科会メンバ6名、市相当の岡崎さん(計14名)。

調査も3回目となり、これまで芽生えのほとんど見られなかつた水中にガマ類と思しき芽生えが多数見られました一方、カラスノエンドウなどの春生の姿を消すなど稚生の移り変わりが確認できました。新たに造成された周囲の乾燥した部分では、他の部分に比べて植物の生長が進めた傾向もうかがえました。

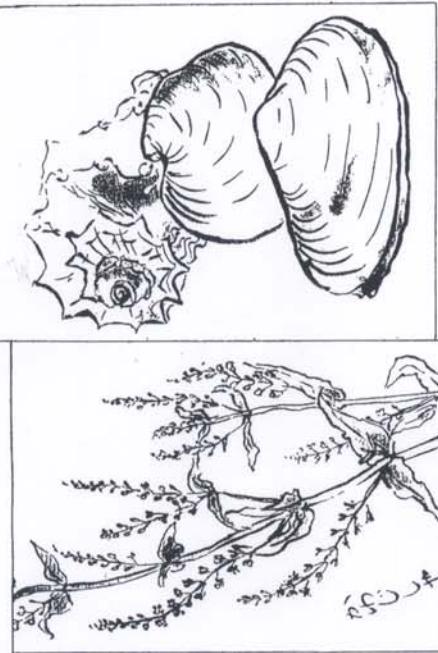
昆蟲類ではトンボが数種見られ、羽化したばかりのイトトンボが頭が黒いの湿地で飛び回っていました。大型の動物ではウシガエルを1匹見つけました。他の水が非常に深んでいたため、1種きで1メートル近く進んだり、直角に曲がることで隠れ場所をごまかす様子も水の上から観察できました。

水位や乾燥の度合いなどで目立った変化はないようですが、雨水による浸食が広がっている所が多いとかなりありました。将来、生き物の池を維持する上で、水流による浸食への対応も必要になると思います。また、調査区標識の杭が一部倒れていた所があり、打ち直しました。

・今後の活動予定

8月10日 9:00~15:00 植生調査 時間を取つてできる範囲で詳細に実施します。

らくがき



【川口じしや】

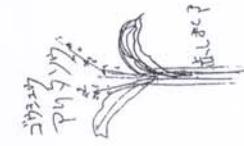
絶滅の危機にある植物と聞いて
びっくりしました。
白い花が葉の下から順に咲き
とても美しい。思わず写真を
撮りたくなりました。

【貝類】

5千年前には生きていたと伺った。
12-15位の大きさ貝でその昔は
茹でて干物にして、食べていたとか。
殻で櫛を作っていたものは生きてい
てはいませんが、死んでしまった
貝だそうです。やはりこの場所は海の
底!! (篠)



運営検討分科会メンバーの中西あつ子さんが
7月6日(日)の全体会後の植生調査時に
その場でスケッチされたものです



<会報担当よりのお願い>

会報裏面に掲載する記事、スケッチを募集しております。
第3号を9月上旬に予定しておりますので提出して頂ける方は
各分科会の会報担当に9月4までに送して頂ければ幸いです。

北方遊水池の会 会報 第2号の追伸

北方遊水池の会 会報 第2号の<役員会便り>への記事が届きましたので置ればながらお伝えいたします。

<役員会便り>

7月30日の役員会報告をいたします。

<要約>

- 1 施設分科会の 植栽基本計画、北部広場、外周堤防の案を全体会で審査
 - 2 水供給の自噴泉の状態が不明確なので、調査を行う。
 - 3 当面平成16年度予算申請について 北方遊水池の会として申請内容を決める。予算開通日程を全体会で発表。
 - 4 行政会員を全体会で紹介。
 - 5 次回 役員会 9月9日(火)18:30 八幡分庁舎
 - 全体会 9月27日(火)13:30 北方小学校(予定)
- <詳細>
- 場所 : 八幡分庁舎 2階会議室
出席 : 川野、鳥居、佐伯、山下、横山(哲也)、岩田、高橋、川上、横山(孝仁)
眞間川改修事務所 鎌田 公園緑地課 松村、五味 コンサルタント 1 (牧路)
- 施設分科会の発表
植栽基本計画、北部広場、外周堤防の検討を行った。現在ビジャーセンター計画を検討中。
意見：蓮田は深い配慮は飛び飛びでは不都合だろう。
- 対応：どのようなものがあるが答弁発分科会で調査し、次回全体会で報告する。
- 質問：施設分科会の案は中間答申レベルのもの：川上
回答：基本的に水と緑、井戸の水を循環、水の利用がポイント、近くの斜面林と一緒にして緑を増やす。
- 施設分科会の案は施設面での予算取りの日程など行政側の情報が必要。川上
回答：運営と施設の考え方があり、どちらが先に決めるべきかは、結論がでない。施設分科会の案は単にたたき台でありこれが決まった方が考えやすいと考へる。
- 8月30日全体会で方向が決まらないと思われるのなどでどちらから決めていくか、決める順序を考える必要がある
- ・全体会当日来れない人がいるので全体会お知らせの中に設計案を入れる。
- ・北東部の現状の計画の色塗りは土地買収の件があり消してほしい。
- ・周辺住民より見学会の騒音の苦情あり。
- 対応：該当区域に立ち寄らないようにバリケードなどを設置。今後の見学会も注意が必要がある。
- ・池内の水供給について
・自噴泉はないとのこと。
・自噴泉は動力により止水は周辺の雨水利用者に影響があるのでできない。
・北東部と南東部の門から較り水が出てくる。

8月30日施設で分科会からの報告について

- 平成16年度予算申請について
質問：施設の予算について今までに予算を出せばよいか岩田
・8月30日全体会で市の予算日程を報告する：松村
・全体会日程：9月末であれば全体会ができる。総会9月の10月9月の20日ごろ。
・市がメインに考えていることは北部広場計画である。造営費用確保したい。10月に予算申請をする日程 市川市 北部広場園分広場の造成費 50,000,000円程度の計画となっている。
・水辺プラザ事業 5カ年計画 平成14年度公園緑地課の事業費は不明 水でプラザ事業は県都の覚え書きは平成16年で完結
・北部広場は植樹、ビジャーセンターの概算金額は現計画で150,000,000円。
当初平成10年から平成13年の計画であった
・外周堤防は県の予算 道路と植樹
・水辺プラザ事業は市の重点事業になっている松村
・予算申請は10月末まで十分であろうOKであろう
・平成16年度予算は9月の全体会で決定分まで入れる
*分科会行政メンバーの参加要望について
・参加の要請として、河川課、水と緑の計画課、公園緑地課、自然環境課、教育委員会指導課
・回答：行政委員は継続的に参加できるかは声をかけてみる。
・分科会の参加に対して、ある程度の分担を考えてしまい。8月5日運営分科会 公園に緑地課と緑の計画課に声をかける。
・公園緑地課で町内の窓口機能を果たしてほしい。
・8月30日の全体会で行政会員の紹介をしてほしい。
- 8月30日全体会 時間配分
- | | |
|-------|----------------------------------|
| 13:30 | 役員会報告 |
| 14:20 | 施設分科会 推案説明(川上) |
| 15:00 | 休憩 |
| 15:10 | 質疑 |
| 15:50 | 分科会案についての意見を募集。用紙を配布。公園緑地課事務局で作成 |
- 9月5日必着。
- 16:00 閉会

北方遊水池の会報

第3号

<役員会便り>

平成15年度 第6回役員会 平成15年9月9日(火) 八幡分庁舎 2階会議室

出席者：川野、魚屋、佐佐、山下、栗田、高橋、川上、桑原、櫻山(販売)、櫻山(事務)

真間川改修事務所 嶋田、室地 公園緑地課 松村、五味 コンサルタント 土浦 (後略)

1. 施設分科会の発表

2. 真間川改修事務所から

・掲示板を2箇所設置する。掲示板の形を施設分科会で検討し、提案する。

・移設候補の樹木のリスト受領。どれを取るか施設分科会で検討。更に保管の仕倉にあ

る樹木も候補にできるとの報告。

3. 東大阪「池島・福万寺カワセミ楽会」メンバー5人が9月14日(日)10:00 北方遊水池を観察

する件に問い合わせ応接検討。

4. 市内在住の方から農機具を提供していただけるとの申出があつたが、役員会で不要と判断しお断りすることとした。

5. 観測井戸から遊水池内への水供給検討要望書の文面について検討。調整後、真間川改修事務所へ提出する。

6. 施設分科会でされたアンケート回答の内容を要約し、検討案への採否を決める。提出アンケートは全体会でコピーを配布。

7. 9月27日(土) 北方遊水池の会 全体会のテーマ 打ち合わせ

8. 今後の日程

10月 7日(火) 18:30 役員会

10月 25日(土) 14:00 全体会

<施設検討分科会便り>

○これまでの検討経過

平成15年8月1日(土)の第11回会合にて、基本計画(植栽、外周堤防、北部広場)を分科会案として取り纏め、8月30日(土)の第3回全体会にて発表しました。又、ビジターセンター・作業小屋の基本方針も第11回会合でほぼ固まってきたので、次回から基本計画に入していくこととなります。

○今後の日程

平成15年9月13日(土) 1:30 p.m~5: p.m 東部公民館にて第12回会合

テーマ：①基本計画の分科会案に対する第3回全体会での意見及びアンケート等を受けての開発及び修正検討

→平成15年9月27日(土) の第4回全体会にて分科会修正案を発表予定

・第13回会合は10月中旬頃に開催予定で日程調整中

<啓発分科会便り>

平成15年9月13日(土) 1:30 p.m~5: p.m 東部公民館にて第12回会合

テーマ：①基本計画の分科会案に対する第3回全体会での意見及びアンケート等を受けての開発及び修正検討

→平成15年9月27日(土) の第4回全体会にて分科会修正案を発表予定

午前中を定例調査に当て午後を自由時間とし参加者各自ゆっくりと遊水池で過ごしました。

次回定例調査会は9月14日(日) 10:00 a.m 北部広場集会(時間厳守でお願いします)

当日、大阪からの見学者がある為、調査日を変更しました。

10月5日(日) 10:00 a.m (2時間) の予定で「鶴見の見ひろおう」という会を開こうと考えています。工事の関係で、もしかすると今しが出来ないかもしません。5000年前の貝塚を、市の広報に載せ、一般の方にも遊水池の魅力を機能して頂きたいと思っています。当日の午後は、定期調査会の予定です。

・日時：9月21日(日) 8時55分から17時頃(雨天決行)

・報察場所：鶴見多目的遊水池、同情報センター

・内容：鶴見川は、真間川と同じく総合治水対策事業の検討河川です。築造中(一部完成)の遊水池や鶴見川を見学します。また、NPO法人「鶴見川流域ネットワーキング」の方々から、その運営について情報センター内で説明を受けます。

・集合：8時55分 JR市川駅改札口(外に出る広い方。シャボ一口ではない)

・解散：17時頃 JR市川駅

・持ち物：運動靴、帽子、飲み物、あれば双眼鏡など観察用具(昼食は現地調達します)

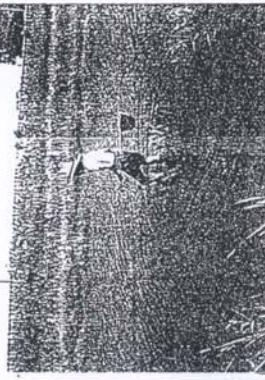
*JR線「新横浜」までの普通乗車券(各自で購入してください)

参加を希望される方は、9月17日(水)までに岩田へお申し込みください。この観察会に他分科会からの参加を歓迎します。申込先の岩田の連絡先は、次の通りです。

e-mail : gqj60801@biglobe.ne.jp (注: qは「オバQ」のq)

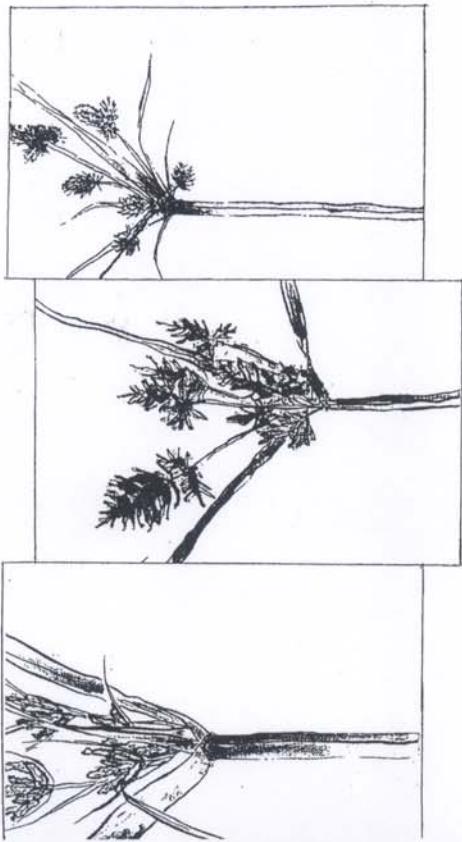
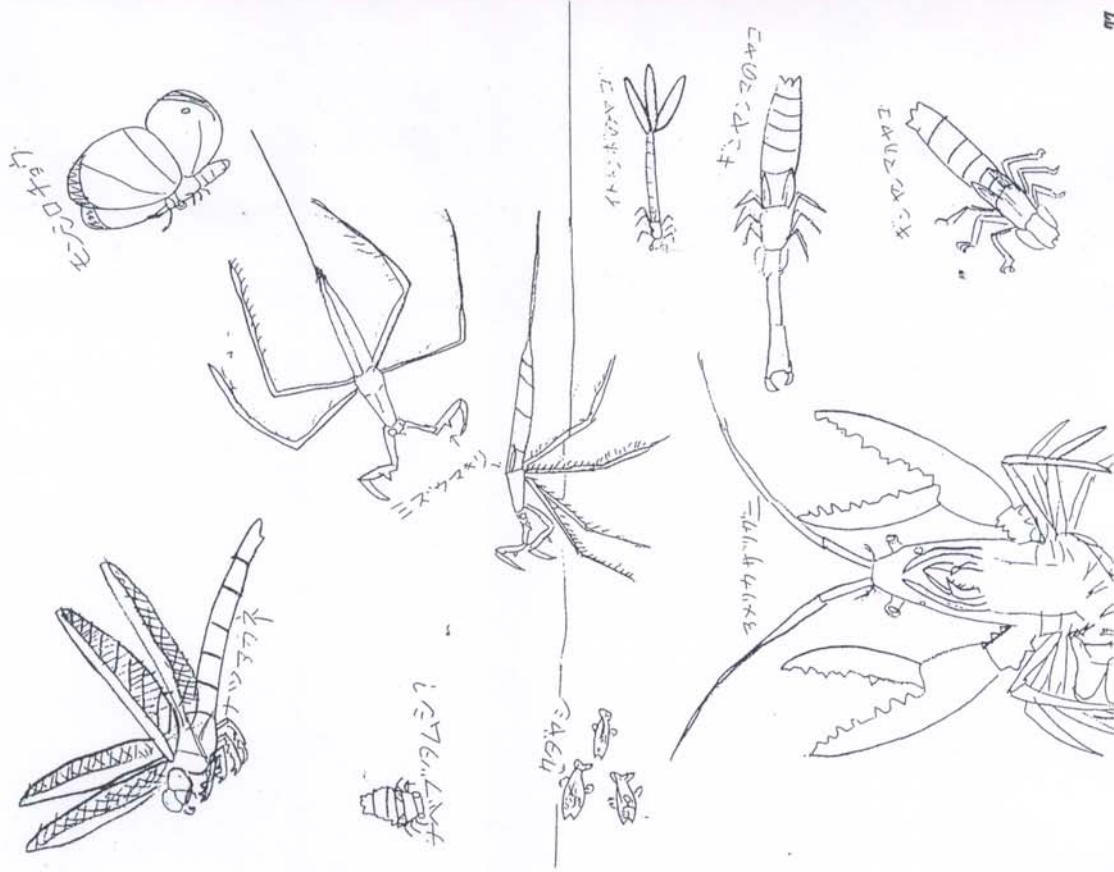
FAX／電話：047-475-0575

8月10日の調査会風景
暑い日でしたが池には心地良い風が吹いていました



らくがき

8月10日(日)の植生調査で見つけた生き物
(啓発メンバーアー 山下龍一君 小5 のスケッチ)



〔茎〕

一見同じ『效極吊り草』の様に元気よく生えているのですが
左から『ウシクグ』『カヤツリグサ』『ヌワカヤツリグサ』
と言う名で茎は三角、ウシクグは1メートル位あり、多少の風
にも揺れずに立っていました。まさに負けず頑としたすむぎに
自らを照らし今を元気にと頑張っています。(黒)

北方遊水池の会 会報

第4号

<役員会便り>

平成15年度 第7回役員会 平成15年10月7日(火) 八幡分庁舎 2階会議室

出席者：川野、鳥居、川上、斎場、山下、佐治
公園課地図 高山、松村、五味 コンサルタント 土橋 (歌路)

1. 10月5日(日)「調査の員を拾おう」の様子報告
2. 各分科会からの報告
3. 事務局からの要望案
4. 施設分科会から
県の工事実施にあたっての細かい内容についての検討のプロセスについて
5. 来年度予算に専門家による調査と協力等の講師への謝礼を組み入れる件について
6. その他 ①今後う僅には、主催団体「北方遊水池の会」を明記する事
②北方遊水池の会マーリングリストを有志で発足させたい旨の提案について
7. 次回全体会(10月25日)のテーマ検討
・上記「3」「4」「5」についての提案と報告等
8. 今後の日程について
- ・役員会 11月 4日(火) pm 6:30~
・全体会 11月29日(土) pm 1:30~
・12月の全体会はお休み

<施設検討分科会便り>

○これまでの検討経過

・標準基本計画、外周堤防基本計画並びに北館広場基本計画の分科会案(平成15年8月30日第3回全体会にて発表)に対して寄せられた意見について、平成15年9月1日第12回会合で議論したが、下記の理由により、もう少し時間を取って議論する必要があるとして、修正案の発表は当面見合わせることとした。
①意見の中には根本的な再検討を要するものがあり、早急な結論付けは無理であるため。
②真間川改修事務所とすり合わせるべき事項が各種あり、協議が必要であるため。
③県の工事進捗状況より考えて、開園が当初予定の平成17年度から平成18年度にずれ込む可能性があり、検討時間に猶豫ができたため。

・平成15年9月17日、真間川改修事務所と話し合いを行い、今後の工事スケジュールや各種すり合わせ事項などを協議したが、基本計画案を修正せざるを得ない部分が多くある事が判明した。今後は真間川改修事務所との協議と分科会会合の検討を緊密かつタイムリーに連動していく必要がある。

○今後の日程

・平成15年10月16日(木) 6:30pm~9:00pm 東部公民館にて第13回会合
テーマ : ①9月17日の真間川改修事務所との協議内容の検討(その1)
②基本計画案に寄せられた意見についての検討(その2)
③ヒンターセンターの基本計画の検討(その1)

*尚、基本計画案の修正案発表は、上記①②③の検討が概ね煮詰った段階で行うこととする。

<運営検討分科会便り>

横浜の鶴見川多目的遊水地復察レポート(9月21日)

9月21日、台風接近の荒天の中、施設と啓発からの参加を含め8人が参加の鶴見川多目的遊水地を視察してきました。以下は、参考した櫻山孝さんの報告と感想です。

鶴見川遊水池は84haあり、北方遊水池16haに比較すると全体面積はかなり広い。新横浜駅から徒歩10分程の位置にある。駅前は中高層ビルが並び、近代的な景観となっている。人が住んでいる気配が少ない。遊水池としては、機能的には道路が通り、景観としては、北方遊水池と大きく異なる。また、計画されている利用にスポーツ施設があり、この点でも自然形を目指す北方と大きく異なる。神奈川の雨水貯留施設は、テニスコートなどの利用が多く、この感覚をそのまま継承している。現階段で、市民開放、利用の計画が具体的にならないが、住民の意思でどのようにしようかという構想がないように感じた。住民の意欲意志を感じない。

NPO法人の方に、案内をしていただいたが、このNPOは維持保全をする事を目的にしているのはなさそうである。このような意味で、北方遊水池の運営、維持を目的にしているのではない。NPO法人は、北方遊水池の運営、維持を目的にしているのではない。NPO法人は、北方遊水池の運営、維持を目的にしているのではない。

このようないくつかの運営状況で、市民提携し住民が協働でこれを考え、実際の運営までを組織的に検討している状況は、日本レベルでは非常に珍しい例ではないかと思われる。今後、市民の視点として、大きな公共投資をせずに住民が望むような利用を考える状態こそ本来の姿であり、実績に即しているように思われる。

<啓発分科会便り>

10月5日(日) 大柏川第一調節池で一般参加の「調査の員を拾う会」が行われました。

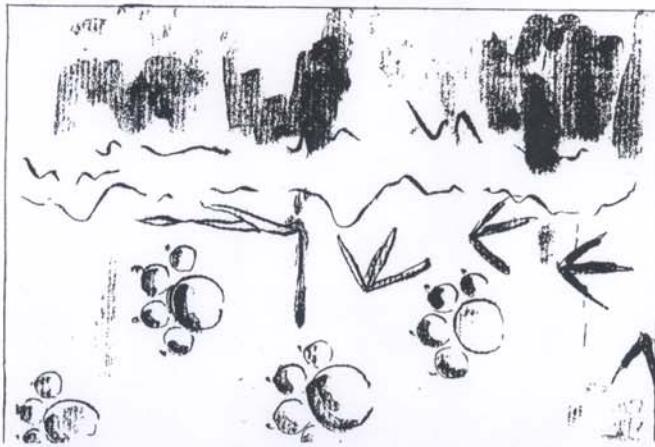
一般参加の方が30~40名、スタッフを入れて総勢60名程の参加者(男女含む)に来ていただき、調節池の魅力を楽しんでもらいました。県や市の方に、負ふぶに抱っこ、と言った企画でしたが・・・。元市川自然博物館の玉置先生始め、県立博物館の員の専門家や考古学を専門の先生方にご指導いただきつつ、楽しい一時を過ごしました。参加者の拾った中からは今まで見つかっていない珍しい貝や、隕石中期や後期の土器、昔の木片等がたくさん出土しました。参加を「市川よみうり」に取り上げてくださいました。この企画を「市川よみうり」として、参加してくださった方々に「北方遊水池の会」と調節池のPRが出来たと共に、まだまだたくさんの方の未知の魅力を始めた大柏川調節池の姿を改めて再確認しました。

*当日撮った写真コピー(別紙)を見てください。

*「市川よみうり」に掲載の記事コピー(別紙)もご覧下さい。

次の啓発分科会の趣意調査は11月2日(日)午後1時より、いとも市民ブルーム開口集合です。冬の準備に取り掛かって調節池の自然と、そろそろ渡つくる冬鳥たちの姿を覗きに来ませんか。

らくがき

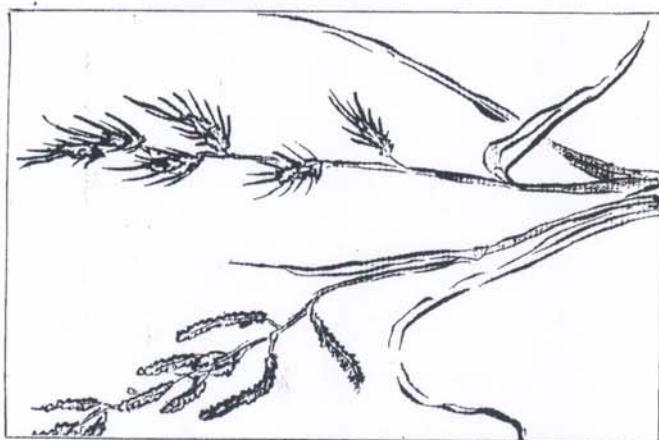


〔足跡〕

東側の池でタヌキの足跡を見つけた。
草のあまり生えていない所の水際で
丸く可愛らしい形をしていた。
サギの足跡もそばに有り、静寂ガスラ
で見てみたいものです。近くに駄道も
できて居ました。

〔イヌビエ〕

草の生えて居る所なら必ず生えて居る
のでは?と思われるこの「イヌビエ」。
左側では「ケイヌビエ」と言い今月
目立つ存在でした。食用にも肥料にも
成らないため「いぬ」と付いたそうです。
9/14 (黒)



「木の中の草原」

市川市立 大野小学校 5年1組 山下 雄一
(答弁分科会メンバー)

8月と9月の嬉しい日。
僕は、水中めがねをかけて池の中を調べながら散歩しました。

池の中は一言で言うと、「木の中の草原」の様な感じです。
木の中にはモガモがたくさんあります。

あまり生き物は少ないのですが、小さなヤゴとか、カブトヤシ等がいます。
身近な所にいるのに、いつしか、どこにいるか分からなくなる
不思議な所です。

北方遊水池の会 会報

役員会よりは今回お休みです。尚、来年最初の全体会は1月24日（土）の予定です。

＜運営検討分科会便り＞

第5回（9月）と第6回（10月）の全体会で、当分科会が運営に関する基本計画を提案し、全体討論の結果、修正して決定していただきました。

修正は1ヶ所のみで、運営組織の基本方針で「主に、市民は実行（人）、行政は予算（金）を分担する。治水上の管理や事故対応は、行政が責任を持つ。」という文が削除されました。これは、行政会員の方から、「公共施設であるから予算措置は当然であり明文化する必要はない。事故対応はケース・バイ・ケースであり、前段の『市民と行政は互いに役割と責任を分からち合い、ともに運営に参りあわれたもの』すなはち、「文書修正」が妥当」という意見を読み取ったものです。

1. 北方遊水池で内陸地の自然環境を導こうとする行為が、「創造」なのか、「復元」なのか？

この場所で自然と人間の関わりをどのように設定するのか？また、維持作業はどうな対応を講じるのか？

2. 導こうとする自然の目標をどのように設定するのか？また、維持作業はどうな対応を講じるのか？「全て元通りという観には行かない」「人間中心から脱して誰かになりたい」「元々あった生態系とは何か」など様々な意見が出されました。

1も2も、市民開放に際して北方遊水池をどのような所にしていいのかとどう振舞にかかる問題です。近年、「自然と人間の共存、共生」があちこちで言われ、私たちも運営に関する基本計画で「自然の保全と利用のバランスを図る」としました。

今年度限りで来年度にかけて、当分科会は運営と維持作業の実施計画を検討する予定で、1も2も避けて通れません。具体的な実行とあわせつつ、皆さんの英知の結集をお願いします。

＜施設検討分科会便り＞

○これまでの検討経過

施設検討分科会では、基本計画（植栽、外周警防、北側広場の3本）を今年度の報告書に暫定案として載せる方向で検討を進めていますが、そのためには以下の4つの課題を検討する必要があると考えています。

①真間川改修事務所の治水事業との調整 ②ビジャーセンターの基本計画の検討

③施設検討分科会以外の会員の方々から寄せられた意見の反映検討

④上記①②③を踏まえての基本計画の見直し

平成15年10月16日には第1回会を開き、真間川改修事務所の担当者同席のもと、上記①の県の治水事業との調整協議を行いました。協議の結果については10月25日の第5回全体会で報告しました。川上よりたき台の園面提示と説明を行い、各自持ち帰って検討することとしました。

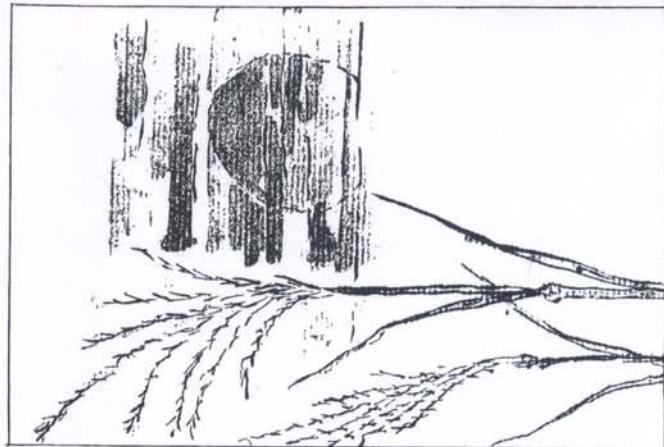
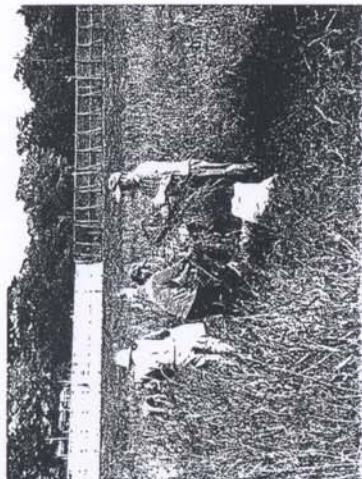
○今後の日程

・第15回会を開くを平成15年12月中旬までの開催予定で日程調整中
テーマ： 1. 植栽基本計画の見直し検討（上記課題の③と④）
2. ビジャーセンターの基本計画の検討（上記課題②の続き）

☆今後の予定
12月14日（日）遊水池内の冬鳥の観察・植生調査（詳細は追ってお伝えします）

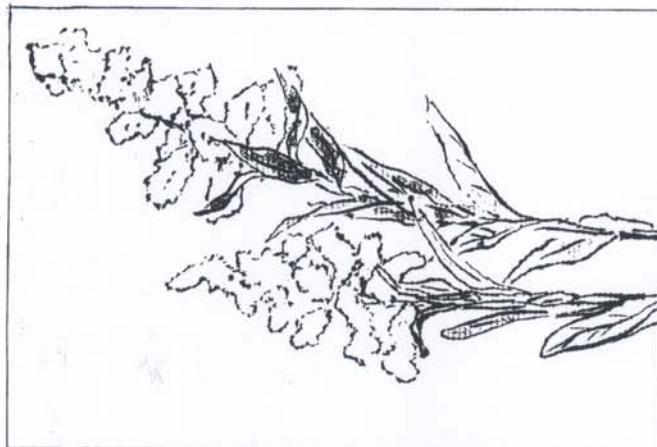
らくがき

十一月二日 那須の草刈り
八人の仲間と初めての草刈りをやつた。
高橋さんを先頭に草刈りと
刈った草の後は付けをやつた
天気も良くて気持ち良し汗をかいた
終わつたのから晴天。
ゆっくりしてらしく真っ赤な夕日が
ほんとに綺麗だね。
楽しかつた。(横田)



81

「オキナ」
ススキにもく根で水辺に生え一本立ち
してゐる。株立ちしない。一本立ち
色に朱まる艶に美い。なんどなく
タモの向てぬまん水邊の草なり
タモの主に主に太陽にあり
タモの音いわむ太陽にあり
十一月二日来る
星



「セイタカアワタチソウ」

この時期一番目立つ花では無いでしょうか!
土を削られたり、休耕田の様などころに
入り込む化物ですが、色が奇麗で一輪
挿にして楽しむのも一興かと。

11/2 (黒)



「クルミ」

4～5千年前の地層からクルミの
殻が出てきた。細かい貝殻に混じり
今取れたての殻に取れて無く、
しつかりして居ました。美味しい物
は変わらないのですね。

北方遊水池の会 会報

第6号

＜役員会便り＞

平成15年度 第10回役員会 12月11日（木）午後6時半から、八幡分所会

＜議題＞

1. 各分科会からの報告
2. 平成15年度の報告書について
12月7日に第1回の総集会議が開かれ、編集方針や大まかな内容について検討した「案」の報告があり、その「案」については1月24日の全体会に提案する。
3. 平成16年度の会員募集について
会員募集の要綱、今後の日程（広報への掲載の段取り）を検討した。
来年度へスムースに入れるよう早く実行すること、又、広い範囲に知らせていくことという方向で話し合った。具体的には次回全体会で提案する。
4. 対行的維持管理に関する県への要望について
12月11日に会長名にて県へ提出した。
5. 次回1月24日の全体会のテーマについて
※2月の全体会日程は、別途ご連絡いたします。

＜施設検討分科会便り＞

○これまでの検討経過

- ・施設検討分科会では、基本計画（植栽、外周堤防、北部広場の3本）を今年度の報告書に暫定案として載せる方向で検討を進めています。
- ・平成15年12月14日の第15回会合では
① 分科会に寄せられた会員意見をふまえた構成基本計画の見直し。
→修正案を平成16年1月24日の第6回全体会にて発表予定
- ② 施設検討の全体スケジュール（第6回全体会にて発表）に基づく検討項目と検討順序の確認、
③ ビジターセンターの基本計画の検討（主に、施設規模と市予算とのギャップに関する対策検討）を行いました。尚、③については、次回会合で再度検討することにしました。

○今後の日程

- ・平成16年1月20日（火） 6：00pm～8：00pm 市川市役所分所会（萬能八幡宮境内）にて第16回会合
- テーマ：1. ビジターセンターの基本計画の検討
→主に、施設規模と市予算とのギャップに関する対策検討（前回会合の続き）
2. 構成基本計画の見直し案の点検（第7回全体会での發表に向けて）
3. 外周堤防基本計画の検討（萬能改修事務所との協議に向けた）
- ・平成16年1月下旬 真間川改修事務所との第2回協議（日程調整中）
- テーマ：1. 外周堤防の整備に関する基本的事項のすり合わせ
2. 治水事業の進捗状況と平成16年度の予定、看板の設置位置など

＜運営検討分科会便り＞

11月15日に通算第12回分科会を行い、維持作業について意見交換を行いました。

- 行徳野鳥観察会での事例紹介、組織（人員配置）や財源の提起、公園緑地の維持管理の解説、開園前と後における作業の趣起など、話題は多岐に渡りました。その中で、「作業の実際は、現場で試してみないと分からぬ」ところが多い。開園前でも、構造が完了した区域で維持作業や観察会を実験的に行なうどうか。機上での検討と現場での実証を行なうことがないと思いつかっ一致し、第6回全体会（11月29日）に「北方遊水池内的一部を試行的に維持管理する検討」を行いました。
- 同全体会では、安全確保（保険など）や草刈りの方法、県との管理分担が問題にされました。とにかくみんなで一歩を踏み出そうと提案は了承されました。
- すでに、啓発分科会を中心に植生調査や貝類調査、会員有志で草刈りが行われていますが、今春からは会全体会で池内に入り本格的に汗を流す事になるでしょう。
- 今年度も残り3ヶ月足らずですが、維持作業と運営の実施計画を出来るだけ前倒しで検討したいと考えています。維持作業の内容は運営組織や予算と不可分ですが、手順として、まず作業内容を洗い出し、次いでそれに見合った人員配置や指揮を検討し、そして予算額を積算するつもりです。

* * 通算第13回運営検討分科会 **

日時：1月17日（土）午後1時30分から4時頃

場所：東部公民館 第2研修室

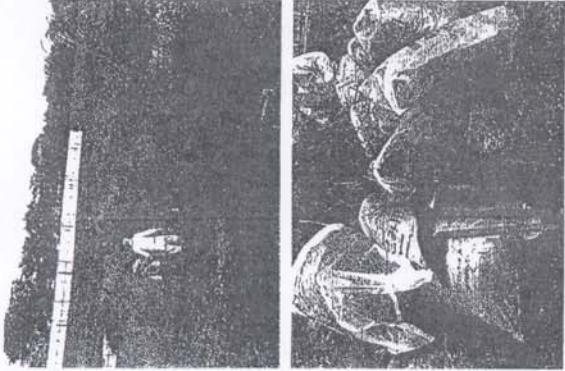
内容：前回に引き続き作業内容の洗い出しを進め、暫定的でも具体的な作業項目を検定。
との分科会も直接に関係する内容で、他分科会の皆さんも奮ってご参加を。また、行政会員の方々の知識や経験が、益々重要になつていますので、ご出席をお願いします。

○次回活動予定

- ・1月18日（日）13時～17時東部公民館 第一会議室
講師：専門家を交えた、しかるべき体制による生態調査前の引継ぎ・その他です。
- 興味のある方はぜひご参加ください。

らくかがき

秋晴れの午後 草刈り進む



十一月二日（日）午後

逆水池棚池通路の草刈りが
予定通り行われた。

当日は晴天に恵まれ草刈り
場は暑からず寒からず、作業には最適で真夏とは違う
さわやかな汗をかけた。

刈り取った草は四十五
リットル収納のゴミ袋に
入れてまとめられた。（三十袋）
心つもりの目標には達し
なかつたが今後の計画立案
に十分な成果といいくべきか。
参加者は八名。

きたかたの棚池の上のもみじせるケヤキに向かう草刈りのみち
カダヤシは池のみならぬに涌きあがり空青く澄む秋の草刈り
水浴びの雀群れ鳴く棚池の袋に詰めるかたき刈り草

（矢島）

83

原稿受け渡しの手違いで掲載できなかつた前回会報原稿をそのまま掲載致しました



オオオナモミ

子供の頃、服につけて遊んだキク科の植物で
道端等に生え、大きめ葉の上にだけの出た
丸い実が付く。先日の草刈りの甲子につき
とても嬉しい実です。メキシコ産で昭和の
初め頃来たそうです。 12/14 (黒)

草刈り日記

12月14日（日）午後1時30分より1時間ほど草刈りを
しました。45リットルの袋13個程度刈り込みましたが、
オオオナモミの実などに邪魔され思うようにいかなかった。
3時半頃から反省会になり、やはり来年度からは実をつけない
9～10月位に終わらせた方が良いのです！と言う結論に
達した。紅いタ日の中気持ちの良い汗をかけた...

参加者 墓田 黒崎の2名

北方遊水池の会 会報

第7号

<役員会便り>

- 2004年2月5日（木）18：30～21：30 場所：市役所八幡分庁舎2階会議室
出席者：樋山（智）、佐伯、森内、山下、鳥居、川上、若田、高橋、権山（幸）、松村、五味（常務）
1. 各分科会報告
2. 平成16年度会員募集 編集 2004年3月15日（月）
①広報いちらかわ 2月21日号に掲載予定
②広報とは別に学校、自治会等でチラシを配布する件につき検討。
・山下さん作成の案の紹介とこれに対する意見、役員意見をまとめ、発布してもらう。
3. 平成16年度活動報告会開催案検討
①当会の活動を会員だけでなく一般の方に広く知ってもらいたい、関心と興味をもつてもらう目的で
4月月中旬以降1時間半程度の報告会を開催する。
②2021の全体会に提案し承認をえる。
4. 対行的維持管理について（案）検討
・運営検討分科会を世話役として一内容案の紹介。2/11（祝日）第2回懇親会議
5. 平成15年度報告書について一内容案の紹介。2/11（祝日）第2回懇親会議
6. 2月21日（土）全体会テーマについて
①平成15年度報告書（案）についての報告
②施設検討分科会推進
③平成15年度活動報告会開催案
7. 3月の予定
①3月（月）18：30 役員会 ②3/27（土）13：30 全体会
8. その他
・行徳野鳥観察会の会の協力についての紹介。
・市長への平成15年度報告会を行う。市長との日程などを公開議地圖で調整する。

<施設検討分科会便り>

- これまでの検討経過
・平成16年1月2日～2月10日に第1回会合を開催
①地域基本計画の修正案の検討。
これは、平成16年1月2日～4日の第7回全体会にて修正案として発表しました。
・被災した承を頂いたと考え、今年度の報告書に盛り込む方向でまとめていきます。
②ビジャーセンター市民案の施設別段と市役所の算定根拠となる計画図面を提示していただき、分科会の検討を経て、結果を全体会にて発表し、今後の方向性をはかることとします。
・平成16年1月29日に千葉県真間川改修事務所との第2回協議を開催
①治水整備事業の進捗状況と今後のスケジュールを開く。
②外周堤防の整備の詳細（施工範囲、施工時期等）を開く。
いずれにしてもこの協議の内容は次回分科会の検討を経て、全体会で報告する予定です。
- 今後の日程
・平成16年2月7日（土）1：30pm～5：00pm 東部公民館にて第17回会合
テーマ：①千葉県真間川改修事務所との第2回協議内容の検討
②ビジャーセンターの市役所の予算算定期報となる計画図面の検討
・平成16年3月6日（土）1：30pm～5：00pm 西部公民館にて第18回会合
テーマ：未定

<運営検討分科会便り>

- 作業の洗い出しから人員配置・組織へ
当分科会は、池内・北部・外周それぞれで「必要とされる運営・維持作業」を、第7回（1月）全体会で提案し、原案通り決定いただきました。この間、外周道路と池内・北部をどのような施設(生け垣、フェンス、門などで区切るか)という安全対策や「外灯や外トイはどうあるべきか」という防犯と利便の両立の問題、バトラーや交番警務など地元自衛会や警察と協力をどう聞くか」という防犯、「植栽樹種と絡んで農業散布をどうするか」という維持作業の問題が話題に上りました。どちらも直ぐ答えを出せませんが、来年度に向けて運営・維持作業の実施計画、利用者規定の策定等に対応を定めています。
今年度の残りでは、作業内容に見合った人員配置や組織の観点から検討し、
部分的でも全体会に提案したいと考えています。

<北方遊水池の一部使用に向けた検討>

- また、北方遊水池の会は新年度から池の一部を試験的に使用する予定で、その準備が急務です。啓発分科会で検討された「専門家を交えたしきるべき体制」もその一つで、当分科会もその検討に協力します。当分科会では、専門家・経験者を講師に招いたり会員が出ていて研修したり人材の育成や交流を通じて協力拡大を図る必要があります。
- この池の一部使用は、遊水池の会全員の取り組みですが、そのための組織改編は行わず維持作業は運営検討分科会で、検討会は啓発分科会で音頭をとる考え方です。今回があくまで試行であり、その様子を見ながら2004年度中に遊水池の会を基に運営組織の拡充・再編を行う予定だからです。県との調整もあり、当分科会は4月以降の維持作業の進め方を検討し、出来るだけ早く全体会に提案する予定です。

<啓発分科会便り>

- 活動報告
・2月1日（日）晴 10：00～12：00 鳥類調査 参加9名
斎藤さんの案内で遊水池内の野鳥の観察を行いました。
また、手前の浅い水面でカモ類と數羽のダリを観察しました。双眼鏡ではようやく姿形がわかる程度ですが、望遠鏡でみると頭の冠羽（頭の鋸り毛）や背中側の金属光沢を呼びた
緑の羽色などがはっきりきました。
しばらくして上空にチヨウゲンボウが飛来した為、水面の鳥がいっせいに飛び立ち、両者の飛翔する姿も観察することが出来ました。
- 遊水池内では、ほかにカワラヒワの行動を見たり声を聞くなど、さまざまな野鳥を観察する
ことが出来ました。

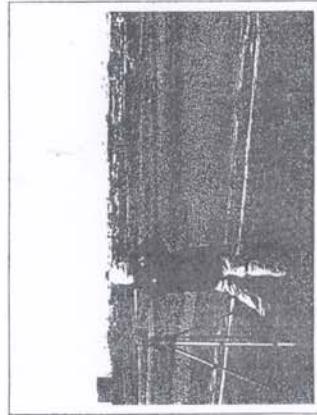
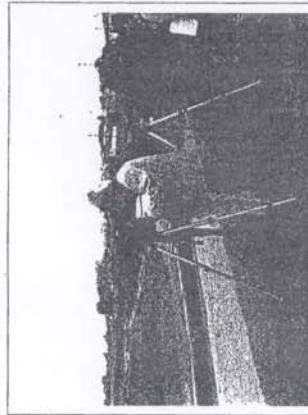
- 次回活動予定
・2月8日（日）13：30～15：00 東部公民館 運営・啓発合同分科会
議題：専門家を交えたしきるべき体制について
- 87

ラ・カ・ガ・キ

冬枯れの草場に鳥を数える

一月十二日（月）午前

85



かつしかの大柏谷を都市化して洪水招き棚池生まる

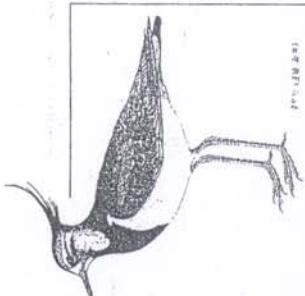
おちこちにユノボたたずむ冬の池砂地広がり造成進む

三十種の鳥を数える人あゆみクサシギ鳴けり冬の棚池

金属の圓いめぐらす棚池のコガモ望むや人の訪れ

野をひらき川うちらわし生きる人のバードウォッヂは罪の属目

（矢島）



〈野鳥のコーナー〉
ちょっと足を止めて、。。。

市川市の鳥となつてゐるウグイス。
ホーホケキョ、ケキョケキヨと鳴くことは聞いたことが
あつたり知つてしたりしますよね。
しかし、今は聽く事ができません。何故なんでしょうか。。。?
また、野外でウグイスを見た事がありますか?
くういすあんつとは言うけれど、サントあんな色をしているのでしょうか?
これから先、彼らの声を聞く事があるでしょう。その時はちょっと足を止めて耳を澄ませて見て下さい。
そこに、彼らは生きています

2月1日、会のメンバーで遊水池で鳥をみました。タグリが10羽位美しい姿を見せていました。

(Keita)

2月の遊水池

初春の太陽の下、枯れ草に囲まれた水辺が
爽やかな風にナラキラと輝き、昨年に刈り
込んだ土手の部分は緑色をしてヨモギや
アワチソウの新芽に覆われ、タンポポの
花が草に埋まつてさいていた。更刈りの
していない部分は枯れ草たち、新芽は
少し出していた。鳥の観察会に同行させて
もらつたが、60歳にして学ぶ事ばかり。
感謝の一言で本日も終わりました。

1/2 (解)



北方遊水池の会 会報

<役員会便り>

第12回役員会 開催日時：2004年3月10日（水）18:30～21:00 場所：八幡分合会2階会議室
<出席>川野、鳥居、横山（哲也）、岩田、山下、佐伯、横山（幸二） 公園課地課 玉味
真間川改修事務所 篠田 コンサルタント（歌略）

概要

- 各分科会からの報告→施設分科会策定の外周堤防計画案は次回全体会で提案
- 平成15年度報告書について
- 「専門家を交えたしかるべき体制」について
- 全体会に「専門家を交えたしかるべき体制（案）」を役員会提案として提出する。
- 4.3月27日（土）の全体会のテーマについて
- 5.その他

（1）会員募集、チラシの配布状況について
・応募者状況 3/10時点でおよそ30名（現会員に対しては、案内状を送り、雑誌掲載をする）
・池周辺の自治会、学校及び市連絡施設、公民館、メディア支援課に配付。

（2）北方遊水池の会 新会員に対する説明会および平成15年度活動報告会について
4月中旬、下旬の土曜日 日曜日で100人程度参加できる場所を確保する。

（3）真間川改修事務所より仮設建物移設利用についての状況説明。

（4）3月27日全体会提案の報告書提案が遅れるため、4月に全体会を開催予定。
「4月17日（土）13:30開始」で3月27日の全体会で提案する。

<施設検討分科会便り>

○これまでの検討経過

- 平成16年2月7日に第17回会合を開催
①ビジャーセンターの今後の方針の検討
市担当課から当初予算根拠となる資料と基本計画図面を提示してもらいい、コンサルタントより説明を受けた。しかし、この市案では利用規範とのギャップが著しく参考資料にとどめることとし、利用規範（収用人数や利用内容など）を最優先条件に、予算制限も考慮して、分科会で再度検討し直す方向で確認した。
- 1月29日真間川改修事務所との調整会議の報告と外周堤防の検討
外周堤防については、今回の真間川改修事務所との調整会議内容をふまえて早急に修正案を検討し、今年度中の全体会にはかかるとした。なお、近隣住民の方々への配慮の問題があるが、来年度の真間川改修事務所や運営検討分科会と協議しながら方針を決めていくこととした。
2. 平成16年3月6日に第18回会合を開催
①外周堤防基本計画の検討
昨年8月30日の全体会修正案について検討を行った。前回の検討に引き続き、次回全体会に提案する予定です。
- （2）外周堤防の整備については、県事業の平成16年度整備ですので、早急に真間川改修事務所へ提言し、調整協議をして詳細を決定する必要があります。
- ②平成15年度報告書の掲載内容の確認
施設検討分科会としては、植栽基本計画と外周堤防基本計画（次回全体会で概ねの了承いただければ）を成果資料として挙げる予定です。
- ③今後（来年度前半）の課題の整理
来年度前半の主な課題は、
 - 外周堤防についての真間川改修事務所との調整協議を経て整備の詳細を決定すること。
 - ビジャーセンターの基本計画を運営検討分科会と調整しながら決定し、
 - 北部広場基本計画を仕上げていくことなどです。

<今後の日程>

- 平成16年3月14日（日）に現地視察を実施（1時間30分程度）
外周堤防を実際に歩き、次回全体会へ提案する外周堤防基本計画修正案の内容を確認します。
- 今後の分科会の日程は未定。来年度の北方遊水池の会の全体スケジュールをふまえて決めていくこととします。

<運営検討分科会便り>

当分科会は、2月26日と3月13日の2回にわたり、4月以降の試行的な運営・維持作業の進め方と開園時の人員配置について検討しました。

試行的な運営・維持作業とは遊水池の一部が完成するので、そこで実際に草刈りなどの維持作業や自然観察会などの催しを試しにやつすというものです。池は依然工事中ですので、草刈りなどの作業が身に付く作業、作業に役立つ観察・勉強会などを実施する必要があります。当分科会はその進捗の方の案を次回全体会で提案します。是非押さえていただきたいのは作業を分科会の体を超えて会員全員で取り組もういう事で、当分科会は単なる旗振り役です。

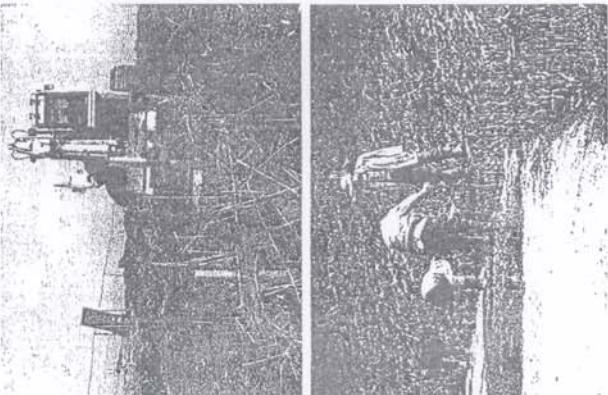
案の検討で話題になったのは、会員全員でやるには作業を難易度的にする事が大切で「おもしろく、楽しく」するにはどうしたらよいかでした。達した結論は、観察や勉強と作業を結びつけようというもの。観察・勉強が身に付く作業、作業に役立つ観察・勉強というファードバッカシステムです。ですから、草刈りなどの作業と合わせて観察会・勉強会も提案します。試行的な「運営」となっているのはそのためです。

開園時の人員配置については、行政会員の協力により市内公園の管理維持の現状を勉強中で、まだ案を固めるまでになっていません。特に問題になつているのは常駐者の扱いです。行政保護区の例を北方遊水池においてはめた試算では池内の維持作業とビジャーセンターの案内業務だけで最低限4人必要で、その人件費は正職員1人ほど非常勤3人とする年間約1870万円との指摘があります。この試算の信憑性は今後の検討に委ねられますか、常駐者の身分保障は人員配置のポイントです。

来年度は試行的な運営・維持作業を踏まえていよいよ運営と維持作業の実施計画を定めますが、市民と行政の協働の眞髄が強く問われています。

<啓発分科会便り>は今回お休みです

棚池のケトとタソボボ



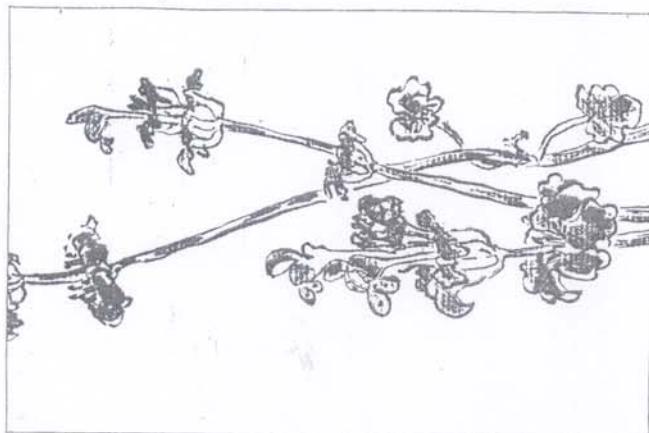
三月十四日（日）午前 晴れ

棚池をめぐり歩けばケトの土はユンボの下にくだけ重なる

春浅き棚池をしばし眺むれば心待たれる緑なす原

タソボボの黄色目にしむ棚池の空青くしてユリカモメ飛ぶ

（矢内）



ホトケノザ

棚ごしに見た棚池は土手の縁と対象的に
広陵として、均された土部分と所々の池に
冷たい風が吹いていました。中に入る機会
が無かつたので、入り口近くに風に倒れ
咲いていたホトケノザを書いてみました。
阿弥陀様が座するところに似ているため
この名が付いたそうです。似ている花で
バレエのスカートの様な葉が下に向いて
いるオドリコソウも咲いていました。

3/7 (黒)

らくかき

4-2 他の団体との交流

4-2-1 インドネシア調査団対応インドネシア研修団の市川市での研修に参加して

12月10日、「地域開発計画の促進、調整、管理に関する研修」に参加のため訪日したインドネシア内務省地域開発総局地域開発計画評価局長・州開発企画局長官・県知事ら9名の方々を市川市にお迎えし、「水辺プラザ整備事業における市民参加の取り組み」についての講義及び現地視察が行われました。

9時から本庁舎で行われた講義に『北方遊水池の会』から川野会長・高橋・森角・佐伯さんと青柳が出席しました。

水と緑の計画課が「水辺プラザ整備事業の概要」、真間川改修工事事務所が「大柏川第一調節池の概要」、水と緑の部が「市民との協働によるまちづくり」について説明した後、川野会長が「北方遊水池の会(市民)の活動状況」と題して、会の目的・組織と活動内容・会の特徴を説明しました。

それに対し、インドネシア研修団からは

- ① 12年という長期にわたって計画を進めてきた中でどのような問題があったか
- ② 『北方遊水池の会』への予算はどこから出ているのか

等の質問がでした。

①の質問に対しては市・県の担当者が、②の質問には川野会長が応じ、「北方遊水池の会への予算は無い。文具等は自分たちで持ち寄り、会議は学校を借りる等、お金がかからないように工夫をしている。予算は無いが、自然を残し子供たちに農業に親しむ場所を提供したい、郷土をきれいにしたいという思いで一生懸命に活動している」と説明しました所、インドネシアでは「政府

が事業を進めるのを市民は待っていればよい」という考えなので、市民が何故 お金と時間をかけて活動するのかを理解できないとのことでした。(研修団随行の日本人アドバイザー談)ト。」
高橋さんが説明を加えましたが、残念ながら十分には理解していただけなかつたようでした。

予定した時間を 1 時間も過ぎていきましたので、それ以上の説明の時間が取れず、十分にご理解いただけないまま、会は終了となりました。

終了後、インドネシア研修団から『北方遊水池の会』に額がプレゼントされ、川野会長が「ビジターセンターができたら、そこに飾りましょう」と、お礼を述べられました。

<参考>インドネシア研修団の研修目的及び日程

1 研修の目的

- ① 日本の地域開発政策
- ② 地方自治体の開発計画(地方計画)
- ③ 地域振興・まちづくり(講義・視察);住民との連携を含む

2 日程

12月 8日 午後 JICA本部訪問

12月 9日 午前 日本の地域開発政策(東京大学先端科学技術センター)

午後 地方自治体の開発計画(地方計画)(財団法人東京市政調査会)

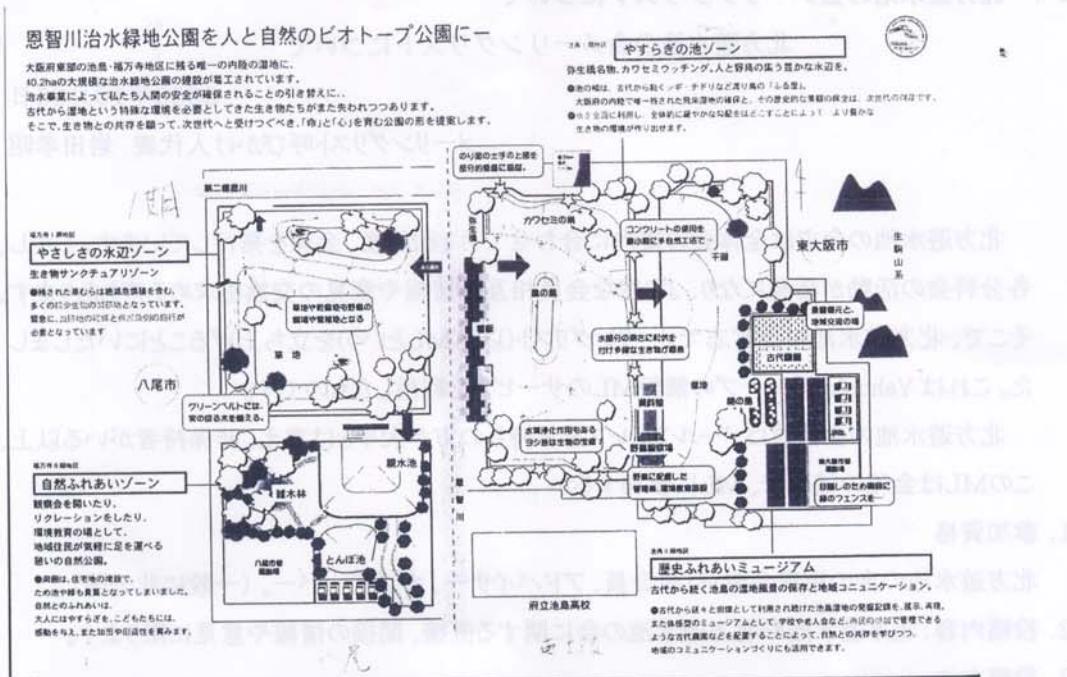
12月 10日 市川市訪問(午前 講義、午後 視察)

12月 11日 UNCRD研修に合流

12月 12日 午前 公共施設の維持管理(東京大学先端科学技術センター)

午後 研修

4-2-2 池島・福万寺カワセミ楽会



2003年9月14日、東大阪より4名の方が
北方遊水池の視察に来られた。

福万寺も当遊水池と同様な地形にある池で観察活動などをされている。
当会から池の現地説明をした後、昼食を兼ねて話し合いをした。



5 参考資料

5-1 北方遊水池の会メーリングリストについて

北方遊水池の会メーリングリストについて

2003年10月25日

メーリングリスト呼びかけ人代表 岩田孝昭

北方遊水池の会では全体会の案内に合わせて月1回程度、会報を発行しています。しかし、各分科会の活動が活発になり、より密な会員相互の情報や意見の交換を求める声もあります。そこで、北方遊水池の会有志でメーリングリスト(以下MLという)を立ち上げることにいたしました。これはYahoo!e グループの無料MLのサービスを利用したものです。

北方遊水池の会会員はメールアドレスをお持ちの方が大半とは言え、非保持者がいる以上、このMLは会報の補助で、MLに参加するか

1. 参加資格

北方遊水池の会の市民会員・行政会員、アドバイサー、オブザーバー。(一般に非公開)

2. 投稿内容: 北方遊水池や北方遊水池の会に関する直接、間接の情報や意見に限ります。

3. 投稿方法

- 投稿者の氏名・所属分科会名を明記してください。(匿名は禁止、ニックネームは使わない)
- 相互の意見交換は尊重します。誹謗中傷や人格に対する攻撃は禁止します。
- 転送は禁止します。但し、本人の了解が得られたものを除きます。
- 北方遊水池の会会員はメールアドレスをお持ちの方が大半とは言え、非保持者がいる以上、このMLは会報の補助で、MLに参加するか
- 参加資格者以外の投稿は、適否を・投稿はテキストのみとし、添付ファイルは付けないでください。画像やファイルはMLのウェップの共有フォルダーにアップロードしてください。

4. 当面、ML呼びかけ人の岩田孝昭が承ります。

- ※北方遊水池の会MLに参加を希望する方は、岩田にご連絡ください。

実際・査定 3

5-2 運営検討分科会の検討項目

参考資料：運営検討分科会の今後の検討項目（2002(平成14)年度報告書より）

1) 自然の保全と利用※1

2) 運営の基本となる考え方

3) 具体的な運営組織や運営方法

ア) 運営組織（園の運営に係わる人達を

① 行政の役割

② 行政と市民との協働

③ 市民ボランティアの役割と組織

④ 他団体からの応援

⑤ 運営組織の規約

イ) 人材育成（園の運営に係わる人達をウ）財源（維持費や運営費を①維持や運営に関わる費用の洗い出しと概算

② 県・市の③利用者の経費負担（入園料等）の有無

エ) 防犯対策（地域の防犯を才）安全対策（利用者の安全を4) 具体的な維持作業

ア) 自然環境の調査と目標設定（自然を復元するか）※2

イ) 作業項目の洗い出し（作業が必要か）

ウ) 作業項目毎の内容の吟味と性格付け（その作業の内容は何か、専門性や危険性や責任

はエ) 作業項目毎の実施主体（その作業はだれが行うか）

5) 具体的な企画

ア) 企画の洗い出しとその内容の吟味（企画が相応しいか）

イ) 他団体との協力の進め方（ウ）企画毎の実施主体（その企画はだれが面倒をみるか）

6) 利用者規定の基本となる考え方

7) 具体的な利用者規定

ア) 利用時間（いつ市民開放するか）

イ) 禁止事項や注意事項（何を守ってもらうか）

ウ) 安全対策（事故な工）ゴミ対策（投棄や散乱を防ぐルールは何か）

オ) 規定の周知や伝達の方法（※1：自然の保全と利用のバランスは全ての項目に共通する課題で個別具体的に検討する。

※2：専門家の協力を得て生態系の調査など

6 調査・研究

目次

6-1 事例研究 1 NPO法人行徳野鳥観察舎友の会（行徳保護区視察報告）

（1）市川市からの保護区内施設管理受託

- ・2000（平成12）年度から市の業務委託を受け、保護区内の運営管理を行う。

- ・受託費の推移

(単位 万円)

年度	総計	管理	調査	啓発	傷病鳥	諸経費	その他
2000	305	147	158	—	—		常勤3、非常勤7を市が雇用※1
2001	1270	175	163	96	709	127	常勤2、嘱託1、非常勤2を会が雇用※2
2002	1840	685	163	112	714	168	会の非常勤拡大、退職積立・保険料・旅費の支出

※1 友の会受託の外に緑地開放（土日祝日のみ）に伴い市は管理人2人を配置し 120万円

※2 この他に市が非常勤を雇用。

（2）友の会の雇用・人件費・作業分担

- ・雇用は次の3種類

常勤職員（日給月給、ボーナス有、会が雇用・労災・社会保険料を負担し退職金積立）

非常勤職員（週3日、月14日限度、ボーナス・各保険など無）

臨時雇員（交通費込みで日給8500円程）

- ・人件費（各保険料込み）は、2001（平成13）年度1086万円（受託費の86%）、2002（平成14）年度（退職金積立込み）1627万円（同88%）。2002（平成14）年度では常勤職員だけで約900万円（同49%）。

- ・作業分担は常勤職員が中心に決めるが、非常勤、臨時雇員には危険な事はやらせない。

（3）行政の管理と職員配置

- ・県（環境保護課が主管）が市（自然環境課が主管）に3147万円（2000年度）で委託。

市は友の会に委託。

- ・備品の購入や修理は、県が直接に行う。

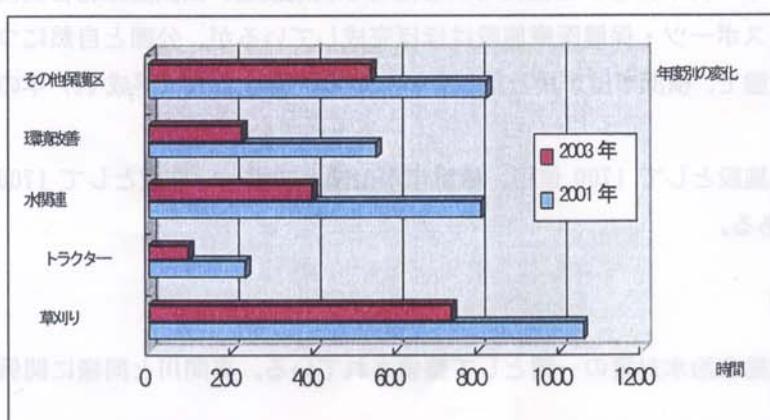
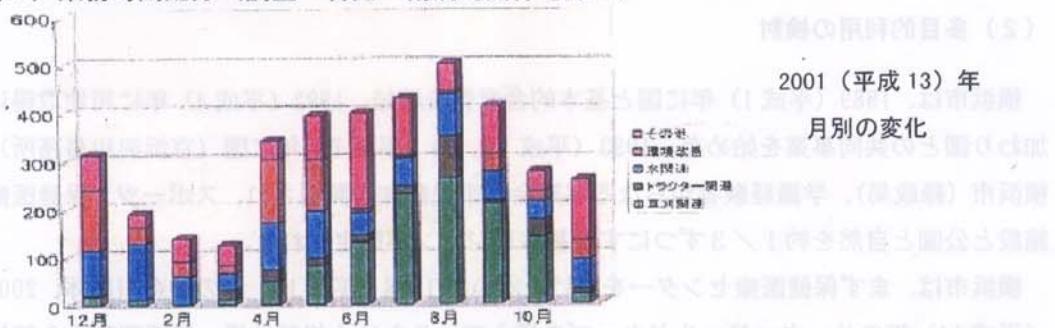
- ・市は観察舎に業務員（観察舎の清掃、公園部の枝おろしや草刈りなど）2人を常駐配置。

市職員の館長はいるが、非常勤。

（4）保護区管理関連業務の内容（調査・啓発・傷病鳥関係を除く）

大分類	小分類	備考
草刈り	観察路・浄化池・その他・干草確保	観察路の総延長 7,000m (2002、2003 年は 4 月 1 回、5 月 2 回、6 月 1 回、7 月 2 回、8 月 2 回、9 月 1 回)
トラクター手入れ	トラクター関連・道・水路・畔手入れ	主に浄化池・池・湿地の掘り起こし作業など
水関連	揚水量・水位関連・ポンプとバイブ関連・様子見・DO メータ一・水車	揚水量…週に 1・2 回 水位…季節による変動
環境改善	スクリーンづくり・樹林帯・カワウ・営巣場所整備・造作・補修ほか	
その他保護区	稲作含む	メダカやニホンアカガエル等日本在来種の導入や環境管理

(5) 業務時間配分（調査・啓発・傷病鳥関係を除く）



(6)用具・機材

用具: 作業服、長靴、水中長、スコップ、レーキ、ホーク、鎌、立ち鎌など。
機材: 軽トラック、トラクター、草刈り機、耕耘機、小型ハーベッシャー、クローラータンク

6-2 事例研究 鶴見川多目的遊水地（視察報告）

（1）概要

鶴見川は、東京都町田市内の源流から多摩丘陵を下って横浜市鶴見区の河口まで全長42.5km、流域面積 235km²（真間川は 65.6 km²）、流域市街化率 85%（真間川は 60%）で1級河川である。1960年頃より都市型水害が頻発し、真間川同様、1979（昭和 54）年に総合治水対策特定河川に指定された。

鶴見川多目的遊水地は、本川の鶴見川と支川の鳥山川が合流する中流部と下流部の境、横浜市港北区に総合治水対策の一環として、1985（昭和 60）年用地取得開始、1994（平成 6）年築造起工された。面積は 84ha（北方遊水池は 16ha）、貯留量 390 万m³（北方遊水池は 25.4 万m³）である。横浜市が遊水地内 70.4ha を公園指定（1993（平成 5）年に都市公園法に基づく公園の事業認可）し新横浜公園を計画している。国（京浜河川事務所）は、治水施設としての池築造を進め、周囲堤、排水門、囲繞堤、越流堤を完成させ 2003（平成 15）年に運用を開始した。

（2）多目的利用の検討

横浜市は、1989（平成 1）年に国と基本的合意書を締結、1992（平成 4）年に用地取得に加わり国との共同事業を始めた。1993（平成 5）、94（平成 6）年に国（京浜河川事務所）、横浜市（緑政局）、学識経験者からなる協議会が市民参加で開催され、スポーツ・保健医療施設と公園と自然を約 1／3 ずつにする基本ビジョンが策定された。

横浜市は、まず保健医療センターを設け、次いで 1998（平成 10）年の神奈川国体、2002（平成 14）年のサッカーワールドカップを控えているため小机競技場、横浜国際総合競技場の建設を優先させた。スポーツ・保健医療施設はほぼ完成しているが、公園と自然については未だ手つかずの状態で、横浜市は市民と話し合いながら整備し 2010（平成 22）年の完成予定である。

事業予算は、国が治水施設として 1700 億円、横浜市が公園・スポーツ施設として 1700 億円、総額 3400 億円である。

（3）市民と行政の協働

鶴見川多目的遊水地は総合治水対策の一環として整備されている。真間川と同様に関係

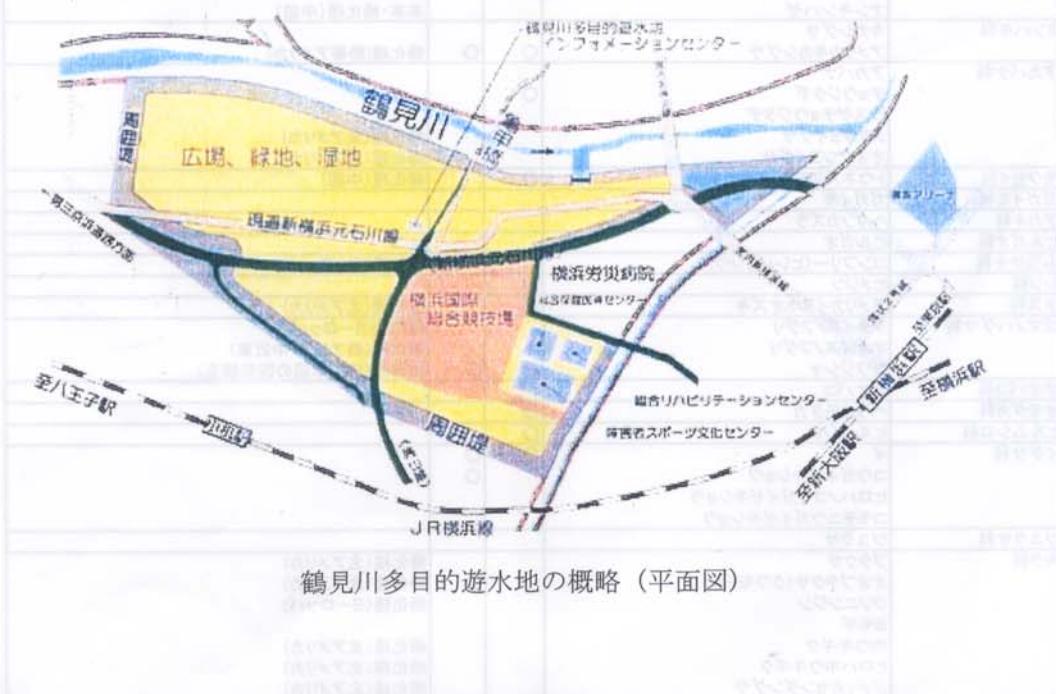
自治体で流域総合治水対策協議会が組織され、事業推進の行政側エンジンとなっている。これに呼応する市民側エンジンが鶴見川流域ネットワーキング（TRネット）である。

TRネットは、1991（平成3）年に対策協議会主催の総合治水キャンペーンイベントへ参加したこと契機に、流域の市民団体がゆるやかに結びついた交流・連携組織で、2002（平成14）年には自然、まちづくり、地域文化など56団体が参加し、自主的イベントの開催、行政イベントへの連携、調査・教育関連活動などを行ってきた。TRネットは、安全、安らぎ、自然環境、福祉重視の川づくり・街づくりを通して、自然と共存する持続可能な流域文化の育成を目指しており、鶴見川を軸に流域規模で活動している点に特色がある。

TRネットは、鶴見川多目的遊水地について、広大な都市型ウェットランドの回復を提案している。

TRネットは2003（平成15）年春、行政と協働を深めるため一部がNPO法人化（npo TRネット）し、従来の流域活動とnpo TRネットの支援ため連携組織（連携TRネット）に変わった。npo TRネットは常勤職員2名、アルバイト1日1名で、鶴見川多目的遊水地では近隣学校へ環境教育の仲介を行っている。

また、遊水地内管理事務所は治水施設の運用と合わせ、国・横浜市・市民団体（TRネット）の共同運営で流域の情報発信拠点（鶴見川流域センター）で2004（平成15）年9月にオープンし、4階建センターは展示室、学習室、交流サロン、図書室などを備える。



6-3 植生調査 6-3-1 出現植物リスト

2003年8月調査をベースとした大柏川第一調節池植物リスト

科名	種名	写真	標本	備考
トクサ科	スギナ イヌスギナ			
ヤナギ科	アカメヤナギ イヌコリヤナギ ナガバノカワヤナギ ボブレスsp	○	木本 木本 木本 木本	
ニレ科	ムクノキ	○	木本	
クワ科	カナムグラ			
タデ科	オオイヌタデ イヌタデ オオケタデ ミソゾバ アキノミチヤナギ アレチギシギシ ナガバギシギシ	○ ○		帰化種(インド・中国) 帰化種(ユーラシア) 帰化種(ヨーロッパ) 帰化種(ヨーロッパ)
ナデシコ科	オランダミミナグサ			
アカザ科	シロザ ケアリタソウ アカザ ウラジロアカザ コアカザ	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	帰化種(熱帯アメリカ) 帰化種(中国) 帰化種(ヨーロッパ) 帰化種(ヨーロッパ)
ヒユ科	ヒナタイノコヅチ			
キンポウゲ科	タガラシ			
アブラナ科	ナズナ タネツケバナ スカシタゴボウ			
バラ科	ノイバラ			
マメ科	ツルマメ メドハギ シナガワハギ クズ アカツメクサ(ムラサキツメクサ) シロツメクサ カラスノエンドウ	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	帰化種(アジア) 帰化種(ヨーロッパ) 帰化種(ヨーロッパ)
トウダイグサ科	オオニシキソウ ナンキンハゼ			帰化種(北アメリカ) 木本・帰化種(中国)
ミソハギ科	キカシグサ アメリカカキカシグサ		○	○ 帰化種(熱帯アメリカ)
アカバナ科	アカバナ チョウジタデ ウスゲチョウジタデ メマツヨイグサ オオマツヨイグサ	○		帰化種(北アメリカ) 帰化種(北アメリカ)
モクセイ科	トウネズミモチ	○		帰化種(中国)
ガガイモ科	ガガイモ			
アカネ科	ヘクソカズラ			
ヒルガオ科	ヒルガオ			
ムラサキ科	コンフリー(ヒレハリソウ)			帰化種(ヨーロッパ)
シソ科	ヒメジン	○		
ナス科	アメリカイヌホオズキ	○		帰化種(北アメリカ)
ゴマノハグサ科	タチイヌノフグリ オオイヌノフグリ カワジシャ		○ ○	帰化種(ヨーロッパ) 帰化種(西アジア・中近東) 特定種(河川水辺の国勢調査)
オオバコ科	オオバコ			
オモダカ科	ヘラオモダカ	○		
ヒルムシロ科	ヒルムシロ	○		
イグサ科	イ コウガイゼキショウ ヒロハノコウガイゼキショウ コモチコウガイゼキショウ	○	○ ○	
ツユクサ科	ツユクサ			
キク科	ブタクサ オオブタクサ(クワモドキ) クニンジン ヨモギ ホウキギク ヒロハホウキギク アメリカセンダングサ		○	帰化種(北アメリカ) 帰化種(北アメリカ) 帰化種(ヨーロッパ) 帰化種(北アメリカ) 帰化種(北アメリカ) 帰化種(北アメリカ)

科名	種名	写真	標本	備考
キク科	オオアレチノギク			帰化種(ブラジル)
	タカサゴロウ			帰化種(北アメリカ)
	ヒメムカシヨモギ			帰化種(南アメリカ)
	ハハコグサ			帰化種(ヨーロッパ)
	ウラジロチヂクゴサ			帰化種(北アメリカ)
	セイタカハハコグサ(セイタカチヂクゴサ)			帰化種(ヨーロッパ)
	キクイモ			帰化種(北アメリカ)
	オオジシバリ			帰化種(ヨーロッパ)
	アキノノゲシ			帰化種(北アメリカ)
	ノボロギク			帰化種(ヨーロッパ)
	セイタカアワダチソウ			帰化種(北アメリカ)
	ノゲシ			帰化種(ヨーロッパ)
イネ科	ヒメジョオン			帰化種(北アメリカ)
	セイヨウタンポポ			帰化種(ヨーロッパ)
	オオオナモミ			帰化種(ユーラシア)
	コブナグサ			
	カズノコグサ			
ガマ科	スズメノチャヒキ			
	ヤマアワ			
	ジュズダマ			
	ギョウギシバ			
	メヒシバ			
	イヌビエ			
	ケイヌビエ			
	ヒメイヌビエ			
	オヒシバ			
	コスズメガヤ			
	ケナシチガヤ			
	アシカキ			
	ネズミムギ			
	オギ			
	オオクサキビ			
	シマズズメノヒエ			
	キシュウスズメノヒエ			
	ヨシ			
カヤツリグサ科	スズメノカタビラ			
	ヒエガエリ			
	アキノエノコログサ			
	キンエノコロ			
	コツブキンエノコロ			
	セイバンモロコシ			
	ヒメモロコシ(ノギナシセイバンモロコシ)			帰化種(ヨーロッパ)
	ヒメガマ			帰化種(ヨーロッパ)
	コガマ			
シャジクモ科	ゴウソ			
	ミコシガヤ			
	ヒメクグ			
	タマガヤツリ			
	アゼガヤツリ			
	ヌマガヤツリ			
	カヤツリグサ			
	アオガヤツリ			
	イガガヤツリ			
	カワラスガナ			
	テンツキ			
	メアゼテンツキ			
	ヒデリコ			
	オオアゼテンツキ			県RDB(C)
	ヒメヒラテンツキ			
	ホタルイ			
	コウキヤガラ			
	フトイ			
	カンガレイ			
	タタラカンガレイ			
	サンカクイ			県RDB(D)
	シャジクモ			国RDB(CR+EN)

全134種うち帰化種45種(33.6%)

このリストは2003年8月28日に木村陽子氏(千葉県生物学会)に同行していただいた調査結果に、定例調査で確認された種を加えたものである。ただし、定例調査において○○の仲間として種名を特定しなかったものについては記載していない。また、フロラ調査は1回しか実施していないので、本表が大柏川第一調節池のフロラ全体を表すものではない。

6-3-2 コンドラート法による調査結果

2003 大柏川第1調節池植生調査

No.	種名	2003.05.11	2003.06.01	2003.07.06	2003.08.10	2003.09.14	2003.10.05	2003.11.02	2003.12.14
		被度 群度 草丈(cm)							
1	オオブタクサ (キク科 帰化種)	1' 1 8	1' 1 30	1' 1 60	1' 1 110	1' 1 90	1' 1 70	1' 1 70	
2	オギ (イネ科)	1' 2 55	1' 2 100	1' 2 120	1' 2 120	1' 2 150	1' 2 180	1' 2 195	
3	イヌタデ (タデ科)	+ 1 7	+ 1 19			1 1 40	1 1 60	1 1 65	
4	コアカザ (アカザ科 古帰化種)	+ 1 7	+ 1 33	1' 1 33	1' 1 60	1' 1 80	1' 1 76	1' 1 76	
5	シロザ (アカザ科)	+ 1 5	1 2 16			1 1 95			
6	ヨモギ (キク科)	+ 1 9	+ 1 28	+ 1 56	+ 1 100	+ 1 120	+ 1 80	+ 1 120	1 1 12
7	ヨシ (イネ科)	1' 2 25	1' 2 28	1' 2 40	1' 2 70	1' 1 90	1' 1 110	1' 1 110	1' 1 100
8	シナガワハギ (マメ科 帰化種)	+ 1 5	1 2 18	2 2 110	2 2 160	4 4 180	2 3 170	2 3 170	2 3 150
9	セイタカアワダチソウ (キク科 帰化種)	+ 1 5	+ 1 15	+ 1 18	+ 1 55	+ 1 87	+ 1 94	+ 1 105	+ 1 90
10	エノコログサ (イネ科)	+ 1 4	+ 1 10	+ 1 34	+ 1 85	2 2 90	2 2 85	2 2 85	
11	タチイヌノフグリ (ゴマノハグサ科 帰化種)	+ 1 5	+ 1 7						
12	スギナ (トクサ科)	+ 1 6	+ 1 10	+ 1 13	+ 1 10				
13	カラスノエンドウ (マメ科)	+ 1 6	+ 1 15						
14	ナズナ (アブラナ科)	+ 1 5							
15	ヒメガマ (ガマ科)	+ 1 30	+ 1 56	1 2 85	1 2 110	1 2 130	1 2 120	1 2 120	
16	シロツメクサ (マメ科 帰化種)	+ 2 1	+ 1 3	+ 1 15	+ 1 20	+ 1 10	+ 1 18	1 1 20	2 2 9
17	カズノコグサ (イネ科)		+ 1 24	+ 1 24					
18	タガラシ (キンポウゲ科)		+ 1 9	+ 1 12	+ 1 12				
19	ヒエガエリ (イネ科)		+ 1 20	+ 1 28	+ 1 30				
20	テンツキ (カヤツリグサ科)			+ 1 8	1 1 15	1 1 10	1 1 14	1 1 14	1 1 12
21	オオクサキビ (イネ科 帰化種)				+ 1 50	1 1 60	1 1 100	1 1 90	
22	イヌビエ (イネ科)					2 2 110	2 2 100	1 1 68	1 1 85
23	ナガバノカワヤナギ (ヤナギ科)					1' 1 110	+ 1 60	1 1 70	+ 1 73

No.	種名	2003.05.11 16種	2003.06.01 18種	2003.07.06 16種	2003.08.10 24種	2003.09.14 28種	2003.10.05 30種	2003.11.02 25種	2003.12.14 12種
		被度 草丈(cm)	群度 草丈(cm)	被度 草丈(cm)	群度 草丈(cm)	被度 草丈(cm)	群度 草丈(cm)	被度 草丈(cm)	群度 草丈(cm)
24	タマガヤツリ (カヤツリグサ科)				1' 1	1 1	+ 1	+ 1	
					45	38	55	55	
25	ギシギシの仲間 (タデ科)				+ 1	+ 1	+ 1		
					25	14	14		
26	コブナグサ (イネ科)				+ 1	+ 1	+ 1		
					17	25	14		
27	マツヨイグサの仲間 (アカバナ科 帳化種)				+ 1	+ 1	+ 1	+ 1	+ 1
					12	5	5	7	2
28	アメリカキカシグサ (ミソハギ科 帳化種)				+ 1	+ 1	+ 1		
					8	10	10		
29	キンエノコロ (イネ科)					+ 1	1 1	1 1	
						63	110	110	
30	ケイヌビエ (イネ科)					1 1	2 2	2 2	
						120	120	120	
31	イガガヤツリ (カヤツリグサ科)					+ 1	+ 1	+ 1	
						30	30	30	
32	アゼガヤツリ (カヤツリグサ科)			4		1 1	1 1	1 1	
						50	60	60	
33	ツルマメ (マメ科)					1 1	1 1	1 1	
						140	150	150	
34	サンカクイ (カヤツリグサ科)					+ 1	1 1	1 1	
						48	40	40	
35	ホウキギク (キク科 帳化種)					+ 1	+ 1	+ 1	
						50	60	60	1
36	カワラスガナ (カヤツリグサ科)					1 1	1 1	1 1	
						30	42	42	
37	ヌマガヤツリ (カヤツリグサ科)					1 1	+ 1	+ 1	
						125	100	100	
38	ヒメクグ (カヤツリグサ科)						+ 1	+ 1	
							14	7	
39	ノゲシの仲間 (キク科)								+ 1
									2
40	イヌノフグリ (ゴマノハグサ科)								+ 1
									3
41	アブラナ科ロゼット (アブラナ科)								+ 1
									1
42	キノコsp							+ 1	
								5	

2003 大柏川第1調節池植生調査

調査区番号	2
調査区面積	東西2m×南北6m
調査区の概要	上池の南端に位置し、水中から水際線を含んで岸部にいたる南北方向に細長い調査区。陸地部はビート層になっている。調査区の北端1mほどが水中。

No.	種名	2003.05.11	2003.06.01	2003.07.06	2003.08.10	2003.09.14	2003.10.05	2003.11.02	2003.12.14
		8種 被度 草丈(cm)	8種 被度 草丈(cm)	11種 被度 草丈(cm)	25種 被度 草丈(cm)	20種 被度 草丈(cm)	21種 被度 草丈(cm)	18種 被度 草丈(cm)	11種 被度 草丈(cm)
1	メシバ (イネ科)	+	1	1 2	2 2	1	1 1	1 1	1 + 1
		20		30	35		30	40	40 33
2	セイタカアワダチソウ (キク科 帰化種)	+	1	+ 1	1 1	+	1 + 1	+ 1	+ 1 + 1
		4		8	15		25	30	30 28
3	カナムグラ (クワ科)	+	1	+ 1	+ 1	+	1 + 1	+ 1	
		3		6	12	5	10	8	
4	アメリカセンダングサ (キク科)	+	1	+ 1	+ 1	1' 1	1' 1	1' 1	
		3		5	23	55	70	90	
5	イヌスキナ (トクサ科)	+	1	+ 1	+ 1	+	1		
		9		8	3	8			
6	イヌタデ (タデ科)	+	1	+ 1	+ 1	+	1 1 1	1 1	
		3		10	18	45	80	80	
7	ツユクサ (ツユクサ科)	+	1	+ 1	+ 1	+	1		
		2.5		7	9	9			
8	テンツキ (カヤツリグサ科)	+	2	+ 2	+ 1	+	1		
		0.5		2	8	10			
9	アザミの仲間 (キク科)				+	1 + 1			
					3	3			
10	タンボホの仲間 (キク科)				+	1 + 1		+ 1	
					4	3		4	
11	スズメノカタビラ (イネ科)				+	1 + 1			
					6	9			
12	ノゲシの仲間 (キク科)				+	1		+ 1 + 1	
					11			7 5	
13	タマガヤツリ (カヤツリグサ科)				1' 2	1' 2	1' 2	1' 2	
					45	40	36	36	
14	コウキヤガラ (カヤツリグサ科)				1 2		2 2	2 2	
					80		50	50	
15	ケアリタソウ (アカザ科)				1 1				
					7				
16	エノコログサ (イネ科)				+	1 + 1			
					36	37			
17	タガラシ (キンポウゲ科)				+	1	+	1	
					2		2	2	
18	ナガバノカワヤナギ (ヤナギ科)				1 1	1 1	1 1	1 1	
					25	40	42	42	

No.	種名	2003.05.11	2003.06.01	2003.07.06	2003.08.10	2003.09.14	2003.10.05	2003.11.02	2003.12.14
		被度 草丈(cm)	群度 草丈(cm)	被度 草丈(cm)	群度 草丈(cm)	被度 草丈(cm)	群度 草丈(cm)	被度 草丈(cm)	群度 草丈(cm)
19	アセガヤツリ (カヤツリグサ科)				1' 1	1' 1	2 1	1 1	1 1
					45	25	50	50	34
20	サンカクイ (カヤツリグサ科)				+ 1	1 1	1 1	1 1	1 1
					65	60	70	70	52
21	タカサゴロウ (キク科)				+ 1	+ 1	+ 1		
					15	20	20		
22	タネツケバナ (アブラナ科)				+ 1				
					2				
23	ギシギシの仲間 (タデ科)				+ 1				+ 1
					8				7
24	ヌマガヤツリ (カヤツリグサ科)					1 1	1 1	1 1	
						110	110	110	
25	オオクサキビ (イネ科 帰化種)					1 1			
						80			
26	ホウキギク (キク科 帰化種)					+ 1	+ 1	+ 1	+ 1
						65	68	70	4
27	タタラカンガレイ (カヤツリグサ科)					+ 1	1 1	1 1	
						50	40	60	
28	ケイヌビエ (イネ科)				+ 2	+ 1	+ 1	+ 1	
					45	100	90	90	
29	イヌビエ (イネ科)					+ 1	+ 1	+ 1	
						75	70	70	
30	イガガヤツリ (カヤツリグサ科)					+ 1	1 1	1 1	
						30	40	40	
31	アメリカキカシグサ (ミソハギ科 帰化種)					+ 1	+ 1		
						30	30		
32	ハハコグサ (キク科)					+ 1			
						3			
33	ヒメガマ (ガマ科)						1 1	1 1	
							70	70	
34	ヒメジソ (シソ科)						1 1	1 1	
							20	20	
35	コウガイゼキショウ (イグサ科)								+ 1
									7
36	ジシバリ (キク科)								+ 1
									7
37	ヨシ (イネ科)								1 1
									55

2003 大柏川第1調節池植生調査

調査区番号	3
調査区面積	南北2m×東西10m
調査区の概要	東側の外周堤防西斜面に設置。管理通路から4m20cmまでは平坦な湿地。湿地から2m90cmまではゆるい傾斜。その上はややきつい傾斜。

No.	種名	2003.05.11	2003.06.01	2003.07.06	2003.08.10	2003.09.14	2003.10.05	2003.11.02	2003.12.14
		被度 草丈(cm)	群度 草丈(cm)	被度 草丈(cm)	群度 草丈(cm)	被度 草丈(cm)	群度 草丈(cm)	被度 草丈(cm)	群度 草丈(cm)
1	ヒメガマ (ガマ科)	2 155	3 190	2 90	3 170	2 190	2 180	2 180	2 160
2	カワヂシャ (ゴマノハグサ科)	1 100	2 130	1 —	2 —	1 —	—	—	—
3	ヨシ (イネ科)	2 130	2 130	2 75	2 110	2 145	2 160	2 160	2 160
4	アシカキ (イネ科)	2 30	2 50	3 30	3 70	3 60	3 60	3 60	3 60
5	ナガバギギシ (タデ科)	1' 100	1' 160	1' 20	1' 100	—	—	+ 40	1 50
6	ケナシチガヤ (イネ科)	1 70	1 84	1 30	1 30	—	—	—	—
7	セイタカアワダチソウ (キク科 帰化種)	1' 70	1 110	1 20	2 95	2 175	2 190	2 190	2 80
8	アカザ (アカザ科 古帰化種)	+ 20	—	—	—	—	—	—	—
9	ネズミムギ (イネ科)	2 100	2 100	2 25	1' 75	1 100	—	—	—
10	ヨモギ (キク科)	1' 100	1 116	2 10	2 80	2 115	2 110	2 120	2 35
11	カラスノエンドウ (マメ科)	+ 90	+ 90	1 —	+ 50	—	—	—	—
12	スギナ (トクサ科)	1 30	1 33	1 30	1 30	1 25	1 30	1 30	1 30
13	タンボボ (キク科)	+ 30	1 —	1' 6	1' 20	+ 7	+ 6	—	—
14	ヤエムグラ (アカネ科)	+ 90	+ 50	—	—	—	—	—	—
15	オオシバリ (キク科)	+ 10	—	—	—	—	—	—	—
16	タチイヌノフグリ (ゴマノハグサ科 帰化種)	+ 15	—	—	—	—	—	—	—

No.	種名	2003.05.11 20種	2003.06.01 17種	2003.07.06 13種	2003.08.10 18種	2003.09.14 17種	2003.10.05 17種	2003.11.02 15種	2003.12.14 6種
		被度 草丈(cm)	群度 草丈(cm)	被度 草丈(cm)	群度 草丈(cm)	被度 草丈(cm)	群度 草丈(cm)	被度 草丈(cm)	群度 草丈(cm)
17	オランダミミナグサ (ナデシコ科 帰化種)	1' 1 20							
18	スゲの仲間 (カヤツリグサ科)	+ 1 40							
19	オオマツヨイグサ (アカバナ科 帰化種)	+ 1 30	+ 1 40	+ 1 40	+ 1 45	+ 1 125	+ 1 120	+ 1 130	+ 1 3
20	コウガイゼキショウ (イグサ科)	+ 1 20	1 1 20		+ 1 20				
21	アレチギシギン (タデ科)		+ 1 140						
22	オナモミ (キク科)		+ 1 20	+ 1 8	+ 1 75	+ 1 120	+ 1 130	+ 1 140	
23	ヒエガエリ (イネ科)		1 2 120		1 1 50				
24	オオバコ (オオバコ科)			1' 1 6	+ 1 13	+ 1 7			
25	コブナグサ (イネ科)				+ 1 17	+ 1 50	+ 1 50		
26	サンカクイ (カヤツリグサ科)				+ 1 55	+ 1 40	+ 1 60	+ 1 60	
27	エノコログサ (イネ科)					1' 1 80	1' 1 100	1' 1 100	
28	ホウキギク (キク科)					+ 1 95	+ 1 95	+ 1 90	
29	ヒシバ (イネ科)					+ 1 100	+ 1 80	+ 1 80	
30	カヤツリグサ (カヤツリグサ科)					+ 1 40	+ 1 45	+ 1 45	
31	タカサブロウ (キク科)						+ 1 60	+ 1 50	
32	アメリカセンダングサ (キク科)						+ 1 35		

2003 大柏川第1調節池植生調査

調査区番号	4
調査区面積	南北2m×東西18m
調査区の概要	上池から通路を挟んで下池にいたる東西に長い長方形。東から順に、上池3m、通路8m、1段下がった下池の岸辺が4m、下池3m。

No.	種名	2003.05.11	2003.06.01	2003.07.06	2003.08.10	2003.09.14	2003.10.05	2003.11.02	2003.12.14
		被度 群度 草丈(cm)							
1	ヒメガマ (ガマ科)	1' 1 70	1' 1 96	1' 2 130	1 2 140	2 2 140	2 2 130	2 2 130	
2	ヨシ (イネ科)	1' 1 35	1' 1 52	1' 1 60	1 1 80	1 1 80	1 1 82	1 1 82	
3	スギナ (トクサ科)	+ 1 12	+ 1 25	1 1 15	1 1 12	1 2 18	1 2 12	1 2 12	1' 1 10
4	アメリカセンダングサ (キク科)	+ 1 2	+ 1 6	1 1 25	1 1 55	1 1 65	1 1 70	1 1 70	
5	シナガワハギ (マメ科 帰化種)	+ 1 3	+ 1 10	1 1 48	1 1 90	1 1 130	1 1 130	1 1 130	1 1 130
6	メビシバ (イネ科)	+ 1 8	+ 1 25	1 1 18	1 1 15	1 1 20	1 1 40	1 1 40	
7	イヌタデの仲間 (タデ科)	+ 1 7	+ 1 7			+ 1 30	+ 1 20		
8	セイタカアワダチソウ (キク科 帰化種)	+ 1 4	+ 1 5	+ 1 18	1 1 35	1 1 48	1 1 50	1 1 50	1 1 50
9	ヒエガエリ (イネ科)		+ 1 22	+ 1 30					
10	ガガイモ (ガガイモ科)	+ 1 4	+ 1 11	+ 1 20					
11	コブナグサ (イネ科)	+ 1 5	+ 1 5	1 1 25	1 1 36	1 1 28	1 1 20	1 1 20	
12	ヒメジョオン (キク科)	+ 1 4	+ 1 8						
13	ツルマメ (マメ科)	+ 1 5	+ 1 18	1 1 18	1 1 60	1 1 60	1 1 60	1 1 60	
14	エノコログサ (イネ科)		+ 1 33	1 1 80	2 2 80	2 2 70	2 2 70		
15	ネズミムギ (イネ科)		+ 1 43						
16	ハハコグサ (キク科)		+ 1 26	+ 1 40					
17	テンツキ (カヤツリグサ科)		+ 1 14	+ 1 12	+ 1 10	+ 1 14	+ 1 14		
18	タンポポの仲間 (キク科)		+ 1 4	+ 1 4					
19	ヒメジン (シソ科)				+ 1 13		+ 1 24	+ 1 24	

No.	種名	2003.05.11	2003.06.01	2003.07.06	2003.08.10	2003.09.14	2003.10.05	2003.11.02	2003.12.14
		被度 8種 草丈(cm)	群度 13種 草丈(cm)	被度 17種 草丈(cm)	群度 24種 草丈(cm)	被度 28種 草丈(cm)	群度 28種 草丈(cm)	被度 28種 草丈(cm)	群度 10種 草丈(cm)
20	タカサゴロウ (キク科)				+ 1 20				
21	キンエノコロ (イネ科)				1' 1 65	2 2 100	2 2 110	2 2 110	
22	イヌビエ (イネ科)				+ 1 55	+ 1 60	+ 1 60	+ 1 60	
23	ナガバノカワヤナギ (ヤナギ科)				+ 1 7	+ 1 16	+ 1 20	+ 1 20	20
24	フトイ (カヤツリグサ科)				+ 1 95	+ 1 100	+ 1 110	+ 1 110	85
25	タマガヤツリ (カヤツリグサ科)				1 1 60	1 1 45	+ 1 38	+ 1 38	
26	ヒメムカシヨモギ (キク科)				+ 1 32	+ 1 55			
27	オオアレチノギク (キク科)				1' 1 52				
28	マツヨイグサ (アカバナ科 帰化種)				+ 1 16	+ 1 10			
29	ホウキギク (キク科)					1 1 88	+ 1 60	+ 1 60	
30	アゼガヤツリ (カヤツリグサ科)					1 1 40	1 1 45	1 1 45	28
31	ヌマガヤツリ (カヤツリグサ科)					1 1 100	1 1 90	1 1 90	
32	カワラスガナ (カヤツリグサ科)					+ 1 50	+ 1 40	+ 1 40	
33	サンカクイ (カヤツリグサ科)					+ 1 33	+ 1 40	+ 1 40	35
34	タタラカンガレイ (カヤツリグサ科)					+ 1 36	+ 1 36	+ 1 36	
35	オオクサキビ (イネ科: 帰化種)					1' 1 70	1' 1 80	1' 1 80	
36	ケイヌビエ (イネ科)					1 1 110	1 1 83	1 1 83	
37	イガガヤツリ (カヤツリグサ科)					+ 1 25	+ 1 36	+ 1 36	
38	ヨモギ (キク科)						+ 1 12	+ 1 12	6
39	マツヨイグサ類のロゼット (アカバナ科 帰化種)							+ 1 2	2
40	コウガイセキショウ (イグサ科)								+ 1 8

日本中央植物園自作大苗表	
トマト	14
ホーリー	1m ² /am
室蘭	1.7H/1m ²
カボチャ	1.5 ² m ² /100

日本大根販賣店走表	
セント	H2
室蘭	1m ² /am
ホーリー	1.7H/1m ²
カボチャ	1.5 ² m ² /100

6-4 水質調査

項目	2003.5.11 14:30		2003.8.10 11:00		2003.11.12 14:30		2004.2.27 16:15		
	上の池	下の池	上の池	下の池	上の池	下の池	上の池北	上の池南	下の池
pH	7.3	7.6	8.1	8.0	7.9	7.9	7.96	7.79	7.75
電気伝導度(ms/m)	11	11	60	63	34	40	72	56	57
濁度(NTU)	3	5	3	4	36	18	45	43	83
DO(mg/?)	15.5	14.3	9.8	9.5	10.7	10.2	10.8	12.2	10.1
水温(°C)	11.3	11.8	30.9	28.4	16.1	15.3	13.7	11.2	13.0

測定機器:HORIBA U21XD

※2004年2月27日は水路工事のため水位が著しく少なく、下池は南北2つに分かれていた。水量が少なかったことから参考値にとどめた方がよいかもしれない。

項目の解説

pH(ペーハー)	水素イオン濃度。水の酸性、アルカリ性を示す指標。pH7を中性とし、数値が大きくなるほどアルカリ性、小さくほど酸性を示す。河川での環境基準値は6.5から8.5。植物プランクトンや水草が光合成を行うと水中の二酸化炭素が消費されるのでアルカリ性に傾く。
電気伝導度	導電率、ECとも言い、電気の流れやすさを示す。水に溶けているイオン(電解質)の量が多いと電気を通しやすいので数値が大きくなる。電解質が多いということを水が汚れていると考えれば、導電率が高いほど水が汚れているということでもできる。ただし、藻類や水草が育つためにはある程度の電解質が必要。一般河川での平均的な値は10~40ms/m程度。
濁度	水の濁りの程度を示す値。粘土鉱物カオリンが1mg/?を含む水を濁度1としている。濁りの原因となる物質にはケイ酸塩などの粘土性物質、プランクトン微生物、有機物質などがあるが、粒子の粒径は0.1から数百μmがほとんど。水道の水質基準は2度以下。
DO(溶存酸素)	水中に溶けている酸素の量を現す値。水中に汚染源となる有機物が増えると、それを分解する微生物によって酸素が消費され、値は減少する。魚の生息には5mg/?以上が望ましく、3mg/?以下では呼吸困難となる。好気性微生物が活発に活動するためには2mg/?以上が必要。それ以下では嫌気性分解が起き悪臭が発生する。河川での環境基準は水浴に適するA類型では7.5mg/?以上。

参考(大町自然観察園中央水路)

pH	7.2~7.4
電気伝導度(ms/m)	40~60
濁度(NTU)	8前後
DO(mg/?)	10前後

参考(調整池横大柏川)

pH	7.1~7.2
電気伝導度(ms/m)	50前後
濁度(NTU)	20~30
DO(mg/?)	6.5前後

6-5 鳥類調査

日本古生物学会

北方遊水池03.12.14.

1	ウ科	カワウ	1+
2	サキ'科	ダイサキ'	1+
3		コサキ'	3
4		アオサキ'	2
5	カモ科	コガ'モ	20+
6		オナガ'ガ'モ	1
7	タカ科	トビ'	1
8	ハヤフ'サ科	チョウケンホ'ウ	1
9	チドリ科	コチドリ'	3
10		タケ'リ	1
11	シキ'科	クサシキ'	2
12		タシキ'	1
13	カモメ科	ユリカモメ	30+
14	ハト科	キジ'ハト	-
15	カワセミ科	カワセミ	1
16	ヒバリ科	ヒバリ	5+
17	セキレイ科	ハクセキレイ	5±
18		セグ'ロセキレイ	2+
19		タヒバリ	7+
20	ヒヨトリ科	ヒヨトリ'	-
21	モズ'科	モズ'	1
22	ツグ'ミ科	ショウビ'タキ	1
23		シロハラ	1
24		ツグ'ミ	3+
25	ホオジ'ロ科	ホオジ'ロ	3+
26		アオジ'	2+
27		オオジ'ュリン	1+
28	アトリ科	カワラヒワ	15±
29	ハタオリトリ'科	スズ'メ	20+
30	ムクトリ'科	ムクトリ'	2+
31	カラス科	オナガ'	2+
32		ハシフ'トカラス	-

北方遊水池04.02.01.

1	サキ'科	ダイサキ'	1
2		コサキ'	1
3		アオサキ'	3
4	カモ科	コガ'モ	+
5		オナガ'ガ'モ	2
6	ハヤフ'サ科	チョウケンホ'ウ	1
7	チドリ科	イカルチドリ'	1
8		タケ'リ	10+
9	シキ'科	クサシキ'	2
10		タシキ'	1+
11	カモメ科	ユリカモメ	3+
12	ハト科	キジ'ハト	4+
13	ヒバリ科	ヒバリ	6+
14	セキレイ科	ハクセキレイ	2+
15		タヒバリ	5+
16	ツグ'ミ科	ショウビ'タキ	1
17		シロハラ	1
18		ツグ'ミ	3+
19	ホオジ'ロ科	カワラヒワ	+
20		アオジ'	+
21		オオジ'ュリン	+
22	アトリ科	カワラヒワ	+
23	ハタオリトリ'科	スズ'メ	+
24	ムクトリ'科	ムクトリ'	+
25	カラス科	ハシボ'ソカラス	1
26		ハシフ'トカラス	+

縄文の貝を拾おう！

日時：平成15年10月5日
主催：北方遊水池の会・市川市

ここはどんなことをしているの？

ここは「大柏川第一調節池」といいます。住宅や舗装道路など雨が土にしみ込まない土地が多い都市では、大雨が降ると雨水は一気に川へ流れ込み、川があふれて水害になります。これを防ぐため、大きな池を掘つて川に集まった雨水を一時的に溜め、川があふれないようにしようというのが調節池です。「大柏川第一調節池」は大柏川の水害を防止する目的で千葉県が造成を進めています。

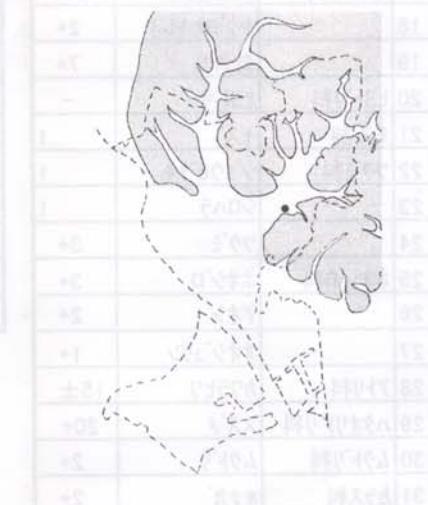
なぜこんなところに貝があるの？

市川の地形を大きくみると、北部が標高20～25mの台地で、南部が海へ続く低地になっています。北部の台地には西の「国分谷」と東の「大柏谷」という大きな二つの谷があり、そこからさらに「谷津」と呼ばれる小さな谷が台地の奥に入り込んでいます。

現在「まち」が発達している低地の部分は縄文時代には海で、海が退いて今の市川の地形がほぼできあがったのは約1000年位前と考えられています。



約5000年前の市川（グレーの部分が陸地で白部分は海だった。）



約3000年前の市川（現在JR総武線や国道14号いが通っているところに“市川砂州”が形成され、調節池は入江の奥部になった。）

縄文時代の人々は台地の上に集落をつくり、目の前に広がる海で貝などを採って食糧にするととも

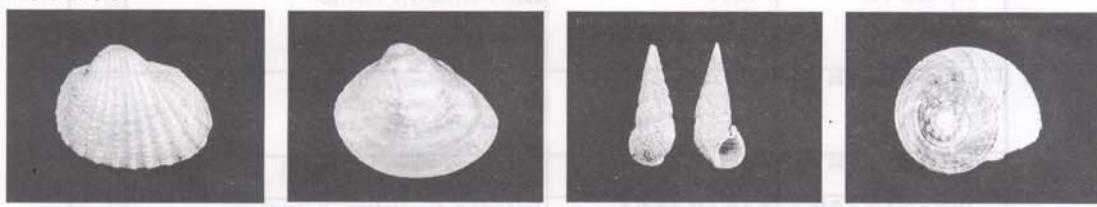
に、干貝などに加工して他の地域の人々と物々交換をしていました。市川市にはそのような集落の跡地が貝塚としてたくさん残っています。大柏川第一調節池で出土している貝は、このような貝塚との関係から約4000年から4500年前のものと考えられます。

どんな貝があるの？今の東京湾の貝と違うの？

大柏川第一調節池の周辺では、これまでにも大柏川の改修工事などで貝が出土しており、約40種の貝が記録されています。

大柏川第一調節池から出土している貝には、死んだ貝の貝殻が波で打ち寄せられたものもありますが、二枚の貝が合わさった状態の二枚貝（合わせ貝とか合弁貝といいます）がたくさんあります。これは、この場所に生息していた貝が、何かの原因で生きたままか、死んですぐに土砂に埋まったことを示しています。

オオノガイやカガミガイ、アカニシなど、多くの種類は現在の東京湾にも生息している種類ですが、中には現在の東京湾には生息していない貝もあります。その代表的なものとしてはハイガイがあげられます。ハイガイはアカガイに似た貝ですが、暖い海に住む貝で、現在では本州南部より南の海に生息しています。このことは、縄文時代の海が現在の東京湾よりも暖かかったことを示していると考えられます。このほかに、現在の東京湾では見られないか、非常に少なくなっている貝として、ハマグリやウミニナ、イボキサゴなどがあります。



ハイガイ

ハマグリ

ウミニナ

イボキサゴ

これまでに分かったことは？

大柏川第1調節池では、これまでに貝類の他に縄文時代中期と思われる土器片が数個出土しています。これらの土器片は周囲が人為的に削られていることから、漁具のおもり（土錘）にしたものと考えられます。これまで市川では貝塚は多数確認されていますが、実際の採貝や漁がどの辺りで行われていたかを示す資料があまり発見されていませんでした。今回、大柏川第1調節池の工事現場でこのような漁具の一部が発見されたことにより、同時代と思われる姥山貝塚（柏井町1丁目）周辺に住んでいた縄文人達がこの場所で漁をしていたのではないかということが推測されます。

これからどうなるの？

現在貝が出土している部分は、今後調節池として掘削が進むと貝の層が見られなくなる可能性があります。北方遊水池の会ではこの縄文の貝層を何らかの形で保存できないか検討しています。都市部の低地でこれだけの規模の掘削工事が行われることは珍ないので、市川市で今後このような縄文の貝層の光景を目にすることは難しいのではないかと思われます。この機会に是非4000年の歴史をご堪能下さい。

大柏川第一調節池産出貝類一覧

番号	科	種名	学名	標本
二枚貝				
1	フネガイ科	サルボオ	<i>Scapharca subcrenata</i> (Lischke)	○
2		ハイガイ	<i>Tegillarca granosa</i> (Linne)	○
3		サトウガイ	<i>Scapharca satowi</i> (Dunker)	○
4	イガイ科	ツヤカラス?	<i>Modiolus elongatus</i> (Swainson)	○
5	ナミマガシワ科	ナミマガシワ	<i>Anomia chinensis</i> Philippi	○
6	ハボウキガイ科	タイラギ	<i>Atrina pectinata</i> (Linnæus)	○
7	イタボガキ科	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i> (Thunberg)	○
8		ケガキ	<i>Sscostrea kegaki</i> Torige&Inaba	○
9		イタボガキ	<i>Ostrea denselamellkosa</i> Lischke	○
10	ツキガイ科	コボレウメ	<i>Piliolina neglecta</i> Habe	○
11		イセシラガイ	<i>Anodontia stearnsiana</i> Oyama	○
12	ザルガイ科	トリガイ	<i>Fulvia mutica</i> (Reeve)	○
13	マルスタレガイ科	ヒメカノコアサリ	<i>Veremolpa micra</i> (Pilsbry)	微
14		アデヤカヒメカノコアサリ	<i>Veremolpa minuta</i> Yokoyama	○微
15		ハマグリ	<i>Meretrix lusoria</i> Röding	○
16		カガミガイ	<i>Dosinorbis japonicus</i> (Reeve)	○
17		ウラカガミ	<i>Dosiniella angulosa</i> (Philippi)	○
18		オキシジミ	<i>Cyclina sinensis</i> (Gmelin)	○
19		フスマガイ	<i>Clementia vatheleti</i> Mabille	○
20		アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i> (Adams et Reeve)	○
21		イヨスダレガイ	<i>Rapha undulata</i> (Born)	○
22		マツカゼガイ	<i>Irus mitis</i> (Deshayes)	○
23	バカガイ科	バカガイ	<i>Mactra chinensis</i> Philippi	○
24		シオフキ	<i>Mactra veneriformis</i> Reeve	○
25		チリメンユキガイ	<i>Meropesta capillacea</i> (Reeve)	○
26		ヤチヨノハナガイ	<i>Raeta pellicula</i> (Reeve)	○
27	ニッコウガイ科	モモナハナガイ	<i>Moerella jedoensis</i> (Lischke)	○
28		テリザクラガイ	<i>Moerella iridescent</i> (Benson)	○
29		イチョウシラトリガイ	<i>Merisca capsoides</i> (Lamarck)	○
30		ヒメシラトリガイ	<i>Macoma incongrua</i> (Martens)	○
31	シオサザナミ科	ムラサキガイ	<i>Soletellina diplos</i> (Linnæus)	○
32		イソシジミ	<i>Nuttallia olivacea</i> (Jay)	○
33	キヌタアゲマキ科	キヌタアゲマキガイ	<i>Solecurtus divaricatus</i> (Lischke)	○
34	マテガイ科	マテガイ	<i>Solen strictus</i> Gould	○
35	オオノガイ科	オオノガイ	<i>Mya arenaria oonogai</i> Makiyama	○
巻貝				
36	ユキノカサガイ科	ツボミガイ	<i>Patelloidea phigaea lampanicola</i> Habe	○
37	ニシキウス科	イボキサゴ	<i>Umbonium moniliform</i> (Lamarck)	○
38	ウミニナ科	カワライガイ	<i>Cerithideopsis djadjaricensis</i> (Matin)	○
39		ウミニナ	<i>Batillaria multiformis</i> (Lischke)	○
40		イボウミニナ	<i>Batillaria zonalis</i> Bruguière	○
41	フトヘナタリ科	フトヘナタリ	<i>Cerithidea rhizophorarum</i> A. Adams	○
42	スナモチツボ科	シマモツボ	<i>Eufenella rufocincta</i> A. Adams	○微
43	タマガイ科	ツメタガイ	<i>Neverita didyma</i> (Röding)	○
44		ホソヤツメタガイ	<i>Glossaulax hosoyal</i> (Kira)	○
45	アッキガイ科	アカニシ	<i>Rapana venosa</i> (Valenciennes)	○
46		イボニシ	<i>Thais clavigera</i> (Küster)	○
47	フトコロガイ科	マルテンスマツムシ	<i>Indomitrella martensi</i> (Lischke)	○
48	ムシロガイ科	ムシロガイ	<i>Niota livescens</i> (Philippi)	○
49		ハナムシロガイ	<i>Zeuxis castus</i> (Gould)	○
50		アラムシロガイ	<i>Reticunassa festiva</i> (Powys)	○
51	スイフガイ科	カミスジカイコガイダマシ	<i>Cylindratys angusta</i> (Gould)	微
52	オオシイノミガイ科	ムラクモキビキガイ	<i>Japanacteon nipponensis</i> (Yokoyama)	○
53	コロモガイ科	コロモガイ	<i>Sydaphera spengleriana</i> (deshayes)	○
54	サザエ科	スガイ	<i>Turbo cornutus coreensis</i> (Recluz)	○
55	ゾウゲツノガイ科	ヤカドツノガイ	<i>Detalium octangulatum</i> Donovan	○

7 基礎資料

丁寧に説明検査室（a）

7-1 大柏川調節池の運営・管理に関する問題点（基本計画より）

重要な課題を整理するため、各意見の中から、最も重要な課題として選定されました。

1. 今後の主な課題

これまでの大柏川調節池ワークショップで提案された自然環境復元を踏まえての運営および管理にかかる提案を基に今後の課題として整理しました。このワークショップで決定した基本計画を踏まえて、今後、行われる詳細設計と平行して検討し、対策を具体化していきます。

（1）浸水後の管理について

地内に造成した田んぼやビオトープ等の治水目的以外の施設について、浸水後の管理方法を検討していきます。なお、治水容量を確保するのに必要な堆積土砂の搬出は、河川管理者（千葉県葛南土木事務所）が行いますが、ワークショップでも浸水後の管理を心配する意見が出ています。

（2）日常の運営管理について

日常の管理として、管理人の配置やボランティア活動の支援、さらにはNPO活動等を検討していきます。ワークショップでは市と市民が協力して行うべき日常の管理はボランティアで対応可能等の意見が提案されています。

（3）利用ルールづくりについて

日常の運営管理にも大いに関係しますが、池の開放時間の検討や各種イベントの検討など利用と保護のバランスが取れたルールづくりを検討していきます。ワークショップでは使用する際のルールづくり、各種イベントの実施などの意見が提案されています。

（4）水源の確保について

稲作やビオトープを行う目的で必要な、水源を確保する必要があります。ワークショップでは水源の確保や地下水に対する影響についての意見が提案されています。

(5) 安全対策について

深池部への転落防止や、浸水時の警報装置を始めとして、夜間の防犯装置や街灯などの安全対策について検討していきます。また、池の生態系を守る上でも安全管理対策が必要です。ワークショップでは安全対策を重要視する意見や開放時間の限定、防犯装置や街灯の設置等の意見が出ています。

(6) 教育委員会を中心とした関係機関との連携について

環境学習や自然体験を進めていく上で、教育委員会や学校等と協議し連携を図っていきます。また、ワークショップでは博物館などの社会教育施設やJA市川市との連携、隣接する市民プールとの施設の共用等を求める意見が出ています。

(7) ゴミの問題について

ゴミの不法投棄や家庭のゴミが捨てられないよう検討していきます。ワークショップではゴミ箱をあえて置かない、ゴミを必ず持ち帰ってもらえるよう利用者へ求める等の意見が出ています。

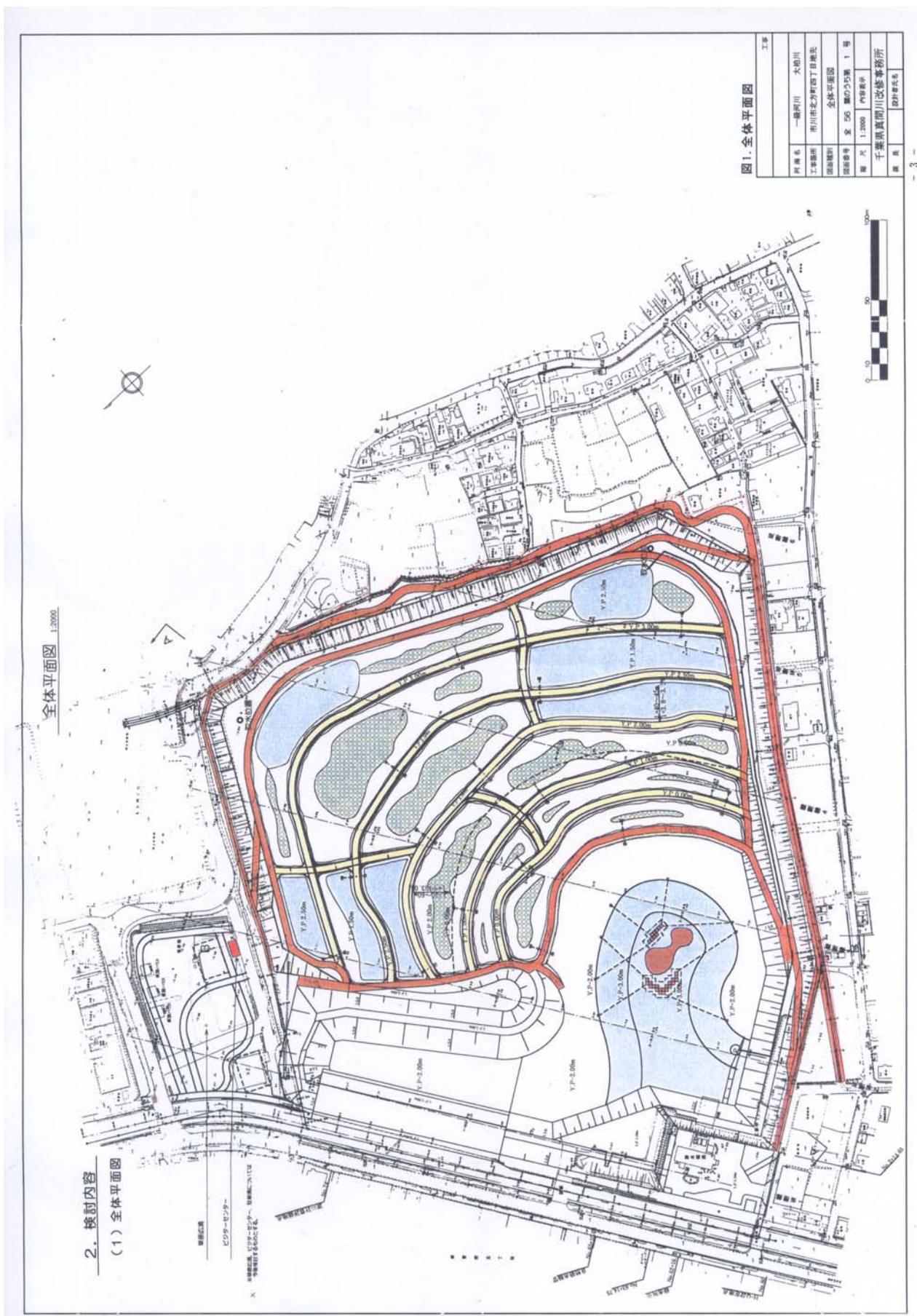
(8) その他の対策について

本来の利用者以外の溜まり場にならないよう考慮していきます。ワークショップでは長いベンチを設置しない、管理人を置くなどの意見が提案されています。

2. 今後の予定

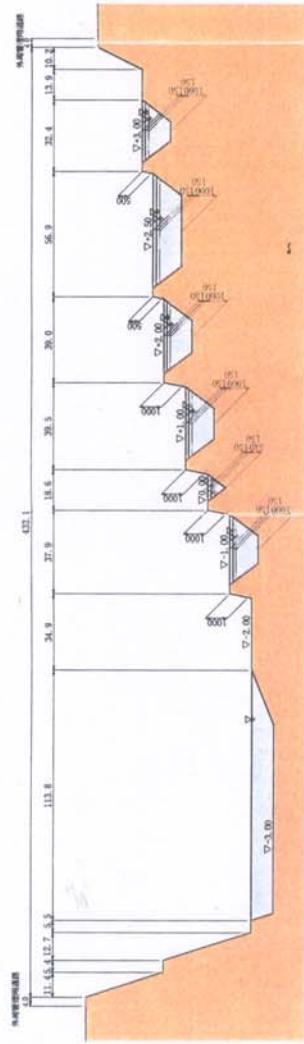
上記の運営管理の検討と詳細設計が基本設計どおりに進んでいるかの確認を行う「運営管理検討委員会」の設置を考えています。具体的な検討方法については現在検討中ですが、今回のワークショップの経験を生かし、市民を中心として関係分野の有識者や市及び県の職員と共に考えていく方針です。

なお、今後の運営管理検討委員会の市民参加については、より広い範囲で募集をする予定ですが、今回の大柏川ワークショップの参加者にも案内を送付し、参加希望者多数の際には優先的に参加できるようにいたします。



造成検討断面図
S=1/2000

A - A断面図



B - B断面図

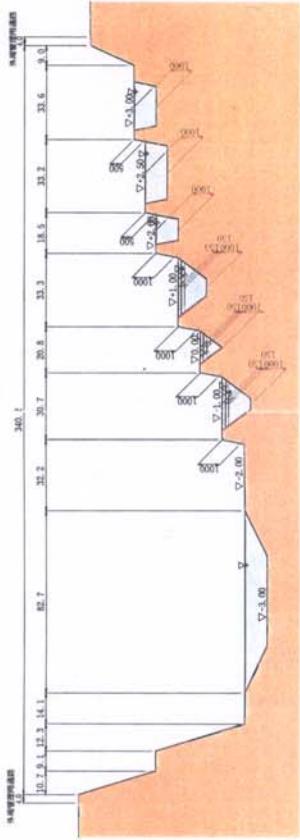
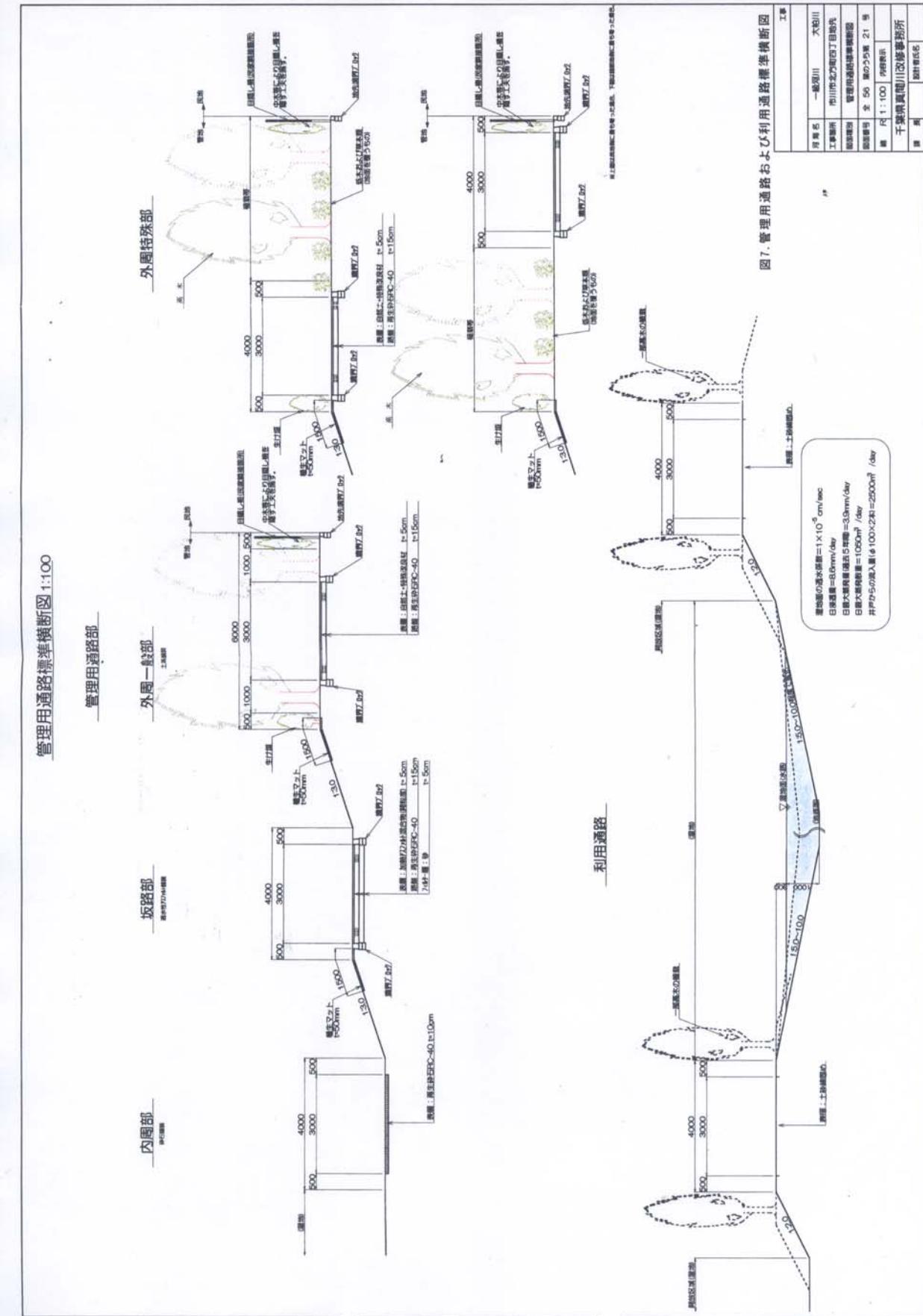


図3. 標準横断図

工事	
河川名	一級河川 大蛇川
工事所	市川市立河川工事所
測量點	造成検討断面図
測量年	
縮尺	1:2000 内容表示
監修者	千葉県農業試験場所
監修者氏名	田中義典

115



8 おわりに

「北方遊水池の会2003（平成15）年度報告書」の発行が遅れたことを先ずは、会員の皆様にお詫び申しあげます。

「大柏川調節池ワークショップ」での基本計画を実施設計に反映させる目的での「大柏川調節池整備検討会」を経て、現在、「北方遊水地の会」（「運営管理検討委員会」）として、種々の問題に取り組んできたこの一年でした。

今回の編集にあたって苦労したことは、各分科会、役員会、市との協議、県との調整会議での詳しいデーター、検討内容、意見等々が限られた頁数に納めなければならず、割愛された部分が多くあったことです。

当初予定された開園が、予算その他の諸事情の関係で遅れていることは非常に残念ですが、諸問題を一つひとつ解決しながら、着実に開園に近づいていることは確かであり、『市民参加による行政とのパートナーシップの構築』という目的が達成されつつあるとの認識が、この報告書で会員の皆様に伝わればと願っています。

最後になりましたが執筆担当の方々をはじめ関係者の皆様に深く感謝いたします。

（編集委員）

